審査意見への対応を記載した書類（６月）

（目次）名古屋学芸大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程

【教育課程等】

１．ディプロマ・ポリシーのＤＰ③[看護実践能力]に「高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて、課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力」を掲げており、これに対応する教育課程として、必修科目は講義科目が３科目設定されているものの、理論や方法論等のいわゆる座学であり、フィールドワークを行う演習科目は選択必修科目が１科目設定されているのみであり、「看護実践の質向上に貢献できる能力」を養成する教育課程となっているか必ずしも明確でないことから、改めてＤＰ③に照らし必要な教育課程が編成されているか明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２

２．演習科目において、授業計画案の作成・実施・評価や模擬授業の実施等、「看護教育機関」に特化した教育能力を養成する教育課程となっているように見受けられるが、ＤＰ③［看護実践能力］で「多職種との連携や協働を通じて、課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力」を掲げていることから、臨床現場をはじめとした保健・医療・福祉・教育等の多様な現場における教育能力を涵養（かんよう）することも重要であると見受けられるため、そのような多様な現場における教育能力の涵養を考慮した教育課程とすることが望ましい。（改善事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ６

３．ＤＰ③[看護実践能力]において「多職種との連携や協働」を掲げており、これに対応する授業科目として設定している「多職種連携方法論」において、看護師・医師・理学療法・作業療法・栄養士の役割や視点について学ぶ内容となっているように見受けられるものの、チーム医療における他職種の役割を幅広く学ぶ観点から、例えば、薬剤師や臨床検査技師といったその他の職種についても学べる内容とすることが望ましい。（改善事項）・・・Ｐ１２

【教員組織】

４．専任教員の年齢構成が著しく高齢に偏っていることから、教育研究の継続性の観点から、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にするとともに、教員配置の適正化を図ること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１３

（是正事項）大学院看護学研究科　看護学専攻（M）

【教育課程等】

１．ディプロマ・ポリシーのＤＰ③[看護実践能力]に「高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて、課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力」を掲げており、これに対応する教育課程として、必修科目は講義科目が３科目設定されているものの、理論や方法論等のいわゆる座学であり、フィールドワークを行う演習科目は選択必修科目が１科目設定されているのみであり、「看護実践の質向上に貢献できる能力」を養成する教育課程となっているか必ずしも明確でないことから、改めてＤＰ③に照らし必要な教育課程が編成されているか明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（対応）

審査意見を踏まえ、以下に示す、新科目「看護フィールド演習」の配置[対応１]及び既存の講義科目のシラバスの一部変更[対応２]により、本研究科におけるＤＰ３[看護実践能力]の達成を確実なものとする。

[対応１]新科目の配置

審査意見を踏まえ、ＤＰ③で求める[看護実践能力] を座学でない実践的な授業科目で育成するため、新たな科目として「看護フィールド演習」（１年前期・２単位・演習・選択）を配置する。

本科目では、学生は実際の看護の場である医療機関等のフィールドに赴き、各現場での課題発見とその解決に向けた取り組みを実践的、能動的に行うことで、看護実践の質向上に貢献できる能力を身につける。本科目のシラバスは添付資料（１）にて示す。

添付資料（１）：「看護フィールド演習」シラバス

[対応２]講義科目のシラバスの改善

上記の新科目の配置に加え、必修の講義科目である「看護理論」（資料２）、「看護教育方法論」（資料３）、「看護倫理学」（資料４）の３科目において、シラバスの一部にＤＰ③[看護実践能力]に関連した内容を加える。

「看護理論」では「各看護理論の看護への活用」（４回分）を、「看護教育方法論」では「病院で実施されている継続教育、生涯教育等への参画」（２回分）を、「看護倫理学」では「本科目において臨地に出向いた際に、各自が体験した医療の場で起こった倫理課題についての分析」等（３回分）を新たに加えた。

添付資料（２）：「看護理論」シラバス

添付資料（３）：「看護教育方法論」シラバス

添付資料（４）：「看護倫理学」シラバス

上記の対応により、本研究科では、座学以外の演習科目としては「看護フィールド演習」（選択）及び専門科目の各演習科目（選択必修）により、ＤＰ③「看護実践能力」を達成する。さらに座学である必修の講義科目３科目においても、ＤＰ③「看護実践能力」の涵養につなげる。

「看護フィールド演習」は選択科目であるが、履修指導により学生への履修を強く推奨する。

（新旧対照表）

新	旧
（教育課程等の概要） 「看護フィールド演習」 （１年前期・２単位・演習・選択）	（科目新設）
（授業科目の概要） 「看護フィールド演習」 看護実践は、これまでの先行研究で明らかにされた科学的根拠をもとに高度な専門的知識を探求することから始まる。また、看護実践は、看護問題や課題をアセスメントし高い倫理観のもと関連する保健・医療・福祉・教育に携わる職種との連携により、アプローチするための能力を高めることが求められている。 　本科目では、看護実践能力を高めるために、看護問題や課題解決に向けた取り組みを実際の看護の場であるフィールドに出て実施し、自己の取り組みを評価することにより課題を明らかにし看護の質向上に貢献できる能力を養う。（科目責任者：安藤純子） （オムニバス方式／全 15 回） （②安藤純子／9 回） 　前半９コマでは、看護現場における看護課題に向合い、課題解決のための対応についてスタッフと共にディスカッションを行い、計画、実施し、帰納法や演繹法を用いて振り返りや再アプローチを行う。課題解決に向けた判断と行動方法について学修を深めることへの支援や看護現場との調整を担当する。 （①臼井千津／5 回） 後半４コマでは、多職種との連携・協働について学ぶため他部門とのケースカンファレンスに参加し臨地での多職種との連携・協働を学ぶ。課題解決に向けての計画、実践の過程を振り返り考察を深め、発表に向けた準備と発表への指導を担当する。 （②安藤純子、①臼井千津／1 回） 看護実践における課題解決に貢献できる実践能力に関する自己の学修課題を明確化するためにオムニバス担当がともに関わる。	（科目新設）

（シラバス） 「看護理論」 第 11 回　看護理論の概要と看護への活用： Margaret　A. Newman 第 12 回　看護理論の概要と看護への活用： Leininger　プレゼンテーション 第 13 回　看護理論の概要と看護への活用： Orem　プレゼンテーション 第 14 回　看護理論の概要と看護への活用： Benner　プレゼンテーション	「看護理論」 第 11 回　看護理論の概要と評価： Margaret　A. Newman 第 12 回　看護理論の概要と評価： Leininger　プレゼンテーション 第 13 回　看護理論の概要と評価： Orem　プレゼンテーション 第 14 回　看護理論の概要と評価： Benner　プレゼンテーション
「看護教育方法論」 第 13 回　看護における継続教育と生涯教育　院内教育，クリニカルラダー，プリセプターシップ(病院で実施されている継続教育、生涯教育等への参画) 第 14 回　看護における継続教育と生涯教育　院内教育、クリニカルラダー、 プリセプターシップ（病院で実施されている継続教育、生涯教育等への参画の報告）	「看護教育方法論」 第 13 回　看護における継続教育と生涯教育　院内教育，クリニカルラダー，プリセプターシップ 第 14 回　看護における継続教育と生涯教育　学習過程の特性と教授法
「看護倫理学」 第 11 回　倫理調整のための事例分析　多職種による倫理カンファレンスまたは Death カンファレンスに参加し、事例分析の方法と多職種協働における看護の役割について学習する。 第 12 回　倫理調整のための事例分析　各自が体験した医療の場で起こった倫理課題について分析する。 第 13 回　倫理調整のための事例分析　各自が体験した教育の場で起こった倫理課題について分析する。	「看護倫理学」 第 11 回　倫理調整のための事例分析 第 12 回　倫理調整のための事例分析 第 13 回　倫理調整のための事例分析
（設置の趣旨等を記載した書類） P21 看護実践科目には看護教育、看護倫理、看護管理の基盤となる「看護教育方法論」「看護倫理学」「看護コンサルテーション論」「看護マネジメント論」「多職種連携方法論」「看護フィールド演習」の６科目を置く。（略） 「看護フィールド演習」では、看護問題や課題解決に向けた取り組みを実際の看護の場であるフィールドに出て実施し、自己の取り組みを評価することにより課題を明らかにし看護の質向上に貢献できる能力を養う。 P26 ＤＰ③の「専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職	看護実践科目には看護教育、看護倫理、看護管理の基盤となる「看護教育方法論」「看護倫理学」「看護コンサルテーション論」「看護マネジメント論」「多職種連携方法論」の５科目を置く。 （略） ＤＰ③の「専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職

種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力」は、「看護理論」（必修）、全ての「看護実践科目」（うち「看護教育方法論」、「看護倫理学」が必修）、全ての「看護関連科目」（６科目のうち２科目が選択必修）、全ての専門科目の「特論」科目と「演習」科目（選択必修）で養成する。 本研究科では、座学以外の演習科目としては「看護フィールド演習」（選択）及び専門科目の各「演習」科目（選択必修）により、ＤＰ③「看護実践能力」を達成する。さらに座学である必修の講義科目３科目においても、ＤＰ③「看護実践能力」の涵養につなげる。「看護フィールド演習」は選択科目であるが、履修指導により学生への履修を推奨する。「看護フィールド演習」を履修しない学生については、必修科目３科目において、臨地での学びを深める内容を強化し、看護実践への活用について深められる内容としている。	種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力」は、「看護理論」（必修）、全ての「看護実践科目」（うち「看護教育方法論」、「看護倫理学」が必修）、全ての「看護関連科目」（６科目のうち２科目が選択必修）、全ての専門科目の「特論」科目と「演習」科目（選択必修）で養成する。
P33 発達看護学領域（その中でも母性・助産看護学）を専攻する者は、１年次前期には、共通科目から「看護研究方法論」（２単位・必修）、「看護教育方法論」（２単位・必修）、「看護フィールド演習」（２単位・選択）、「家族看護学」（２単位・選択）、専門科目から「母性・助産看護学特論」（２単位・選択）の５科目１０単位を履修する。	発達看護学領域（その中でも母性・助産看護学）を専攻する者は、１年次前期には、共通科目から「看護研究方法論」（２単位・必修）、「看護教育方法論」（２単位・必修）、「看護コンサルテーション論」（２単位・選択）、「家族看護学」（２単位・選択）、専門科目から「母性・助産看護学特論」（２単位・選択）の５科目１０単位を履修する。

（改善事項）大学院看護学研究科　看護学専攻（M）

【教育課程等】

２．演習科目において、授業計画案の作成・実施・評価や模擬授業の実施等、「看護教育機関」に特化した教育能力を養成する教育課程となっているように見受けられるが、ＤＰ③［看護実践能力］で「多職種との連携や協働を通じて、課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力」を掲げていることから、臨床現場をはじめとした保健・医療・福祉・教育等の多様な現場における教育能力を涵養（かんよう）することも重要であると見受けられるため、そのような多様な現場における教育能力の涵養を考慮した教育課程とすることが望ましい。

（対応）

共通科目の「看護教育方法論」（２単位・必修）（審査意見１の対応によりシラバスを修正済み）においては、シラバスの各回において「臨床場面における実践指導」「ＯＪＴ場面における指導」「院内教育」「継続教育」等をテーマとして設定しており、必修科目である本科目を中心として「多様な現場における教育能力の涵養」を推進していく計画である。

さらに、審査意見を踏まえ、専門科目の各演習科目（４単位・選択必修）（資料５～１１）について、看護教育機関における教育能力だけでなく、臨床現場をはじめとした保健・医療・福祉・教育等の多様な現場における教育能力を涵養できるように、シラバスの一部修正を行った。具体的な修正内容は、添付資料（５）～（１１）で示す。

以上の対応により、「多様な現場における教育能力の涵養」を達成する。

添付資料（５）　：「母性・助産看護学演習」シラバス
添付資料（６）　：「小児看護学演習」シラバス
添付資料（７）　：「成人・老年看護学演習」シラバス
添付資料（８）　：「精神看護学演習」シラバス
添付資料（９）　：「地域・在宅看護学演習」シラバス
添付資料（１０）：「災害看護学演習」シラバス
添付資料（１１）：「看護管理学演習」シラバス

（新旧対照表）

新	旧
（シラバス） 「母性・助産看護学演習」 目標 ３．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業等計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 第 19 回　フィールドワークの成果発表。学生、教員が参加し意見交換をする。 第 22 回　フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定 第 23 回　決定された課題に対する資料を集める。 第 24 回　計画案の媒体等の準備を行う。 第 25 回　計画案を作成する。 第 26 回　計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う。 第 27 回　計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする。 第 28 回　実施した内容の改善点や学びと課題を整理する。 第 29 回　修正された計画案を完成させる。	（シラバス） 「母性・助産看護学演習」 目標 ３．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 第 19 回　フィールドワークの成果発表。学生、母性・助産等の教員が参加し意見交換をする。 第 22 回　フィールドワークのテーマに関連した講義テーマを絞り、模擬授業計画案を作成する。 第 23 回　フィールドワークのテーマに関連した内容から、模擬授業計画案を作成する。 第 24 回　模擬授業の資料の準備を行う。 第 25 回　模擬授業の Power Point の準備を行う。 第 26 回　模擬授業計画案に沿って模擬授業のプレ実施を行う。実施後修正を行う。 第 27 回　模擬授業計画案に沿って模擬授業を実施する。学生、母性・助産等の教員が参加し意見交換をする。 第 28 回　模擬授業の改善点や模擬授業に対する学びと課題を整理する 。 第 29 回　修正された模擬授業案を完成させる、
「小児看護学演習」 目標 ３．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業等計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 第 21 回　発表後に研究・看護実践の課題や支援の方略について考察し報告書を完成させる。 第 22 回　フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定 第 23 回　決定された課題に対する資料を集める。 第 24 回　計画案の媒体等の準備を行う。 第 25 回　計画案を作成する。 第 26 回　計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後	「小児看護学演習」 目標 ３．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 第 21 回　フィールドワークのテーマに関連した講義テーマを絞り、模擬授業計画案を作成する。 第 22 回　フィールドワークのテーマに関連した内容から、模擬授業計画案を作成する。 第 23 回　模擬授業の資料の準備、Power Point の準備を行う。 第 24 回　模擬授業計画案に沿って模擬授業のプレ実施を行う。 第 25 回　模擬授業計画案に沿って模擬授業を行い、実施後の修正を行う。 第 26 回　模擬授業計画案に沿って模擬授業の実施

修正を行う。 第 27 回　計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする。 第 28 回　実施した内容の改善点や学びと課題を整理する。 第 29 回　修正された計画案を完成させる。	第 27 回　模擬授業の改善点や模擬授業に対する学びと課題を整理する 。 第 28 回　模擬授業の改善点や模擬授業に対する学びと課題を整理する。 第 29 回　研究課題に関するディスカッション
「成人・老年看護学演習」 目標 ３．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業等計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を高める。 第 23 回　フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定 第 24 回　計画案の資料・媒体の準備を行う。 第 25 回　計画案を作成する。 第 26 回　計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う。 第 27 回　計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする。 第 28 回　実施した内容の改善点や学びと課題を整理する。 第 29 回 修正された計画案を完成させる。	「成人・老年看護学演習」 目標 ３．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を高める。 第 23 回　取り上げた単元から、単元目標・指導目標を決定する。 第 24 回　看護学教育の模擬授業指導案を作成する。 第 25 回　学生自身が行う模擬授業の資料・Power Point の準備を行う。 第 26 回　模擬授業指導案に沿ってシミュレーションを行い評価する。 第 27 回　模擬授業を実施し、他者（学生、教員）との意見交換を行う。 第 28 回　模擬授業の改善点や模擬授業に対する学びと課題を整理する。 第 29 回　模擬授業指導案を加筆修正し完成させる。
「精神看護学演習」 目標 ３．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業等計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 第 19 回　フィールドワークの成果発表。学生、教員が参加し意見交換をする。 第 22 回　フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定 第 23 回　決定された課題に対する資料を集める。	「精神看護学演習」 目標 ３．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 第 19 回　フィールドワークの成果発表。学生、母性・助産等の教員が参加し意見交換をする。 第 22 回　フィールドワークのテーマに関連した講義テーマを絞り、模擬授業計画案を作成する。 第 23 回　フィールドワークのテーマに関連した内容から、模擬授業計画案を作成する。

第 24 回　計画案の媒体等の準備を行う。 第 25 回　計画案を作成する。 第 26 回　計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う。 第 27 回　計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする。 第 28 回　実施した内容の改善点や学びと課題を整理する。 第 29 回　修正された計画案を完成させる。	第 24 回　模擬授業の資料の準備を行う。 第 25 回　模擬授業の Power Point の準備を行う。 第 26 回　模擬授業計画案に沿って模擬授業のプレ実施を行う。実施後修正を行う。 第 27 回　模擬授業計画案に沿って模擬授業を実施する。学生、母性・助産等の教員が参加し意見交換をする。 第 28 回　模擬授業の改善点や模擬授業に対する学びと課題を整理する。 第 29 回　修正された模擬授業案を完成させる。
「地域・在宅看護学演習」 目標 ３．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業等計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 第 22 回　フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定 第 23 回　決定された課題に対する資料を集める。 第 24 回　計画案の媒体等の準備を行う。 第 25 回　計画案を作成する。 第 26 回　計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う。 第 27 回　計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする。 第 28 回　実施した内容の改善点や学びと課題を整理する。 第 29 回　修正された計画案を完成させる。 第 30 回　本講における取り組みを振り返り、研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察する。	「地域・在宅看護学演習」 目標 ３．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 第 22 回　フィールドワークのテーマに関連した講義テーマを絞り、模擬授業案を検討する。 第 23 回　フィールドワークの結果を活用した模擬授業計画案を作成する。 第 24 回　模擬授業の資料の準備を行う。 第 25 回　模擬授業の Power Point の準備を行う。 第 26 回　模擬授業計画案に沿って模擬授業のプレ実施を行い、コメント・反応をもとに修正を行う。 第 27 回　学生選定事例の地域保健活動プログラムの発表 第 28 回　児童・生徒との健康なパートナーシップの促進 第 29 回　職場で働いている人々との健康なパートナーシップの促進 第 30 回　地域の高齢者との健康なパートナーシップの促進。
「災害看護学演習」 目標 災害看護教育に関連したテーマで模擬授業等計画を立案・実施・評価の過程で教育指導能力を養う。 第 20 回　フィールドワークのまとめ・フィールドへのフィールドバックを行う。 第 21 回　発表後に研究・看護実践の課題や支援の	「災害看護学演習」 目標 災害看護教育に関連したテーマで模擬授業計画を立案・実施・評価の過程で教育指導能力を養う。 第 20 回 フィールドワークのまとめ・報告書の作成・フィールドへのフィールドバックを行う。 第 21 回 自己の研究推進：研究計画；目的・倫理的

方略について考察し報告書を完成させる。 第 22 回　フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定 第 23 回　決定された課題に対する資料を集める。 第 24 回　計画案の媒体等の準備を行う。 第 25 回　計画案を作成する。 第 26 回　計画案に沿ってプレ実施を行う。 第 27 回　計画に沿いプレ実施・評価・修正を行う。学生、教員が参加し意見交換をする　。 第 28 回　実施した内容の改善点や学びと課題を整理する。 第 29 回　修正された計画案を完成させる。 第 30 回　本講における取り組みを振り返り、研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察する。	課題・研究方法・データ収集・文献検討 第 22 回 自己の研究推進：研究計画；発表・検討・評価・修正 第 23 回 自己の研究推進：データ収集・分析・考察 第 24 回 自己の研究推進：データ収集・分析・考察 第 25 回 自己の研究推進：まとめ・発表・討論・評価・修正 第 26 回 模擬授業の準備・文献・資料の収集および計画立案する。 第 27 回 模擬授業計画に沿いプレ模擬授業を実施・評価・修正を行う。プレにより模擬授業（公開）の準備・ＰＲ 第 28 回 模擬授業を実施する。授業参加者に評価を得・意見交換を行う。 第 29 回 模擬授業の評価より修正し完成させる。模擬授業のまとめを行う。 第 30 回 研究の完成および演習授業における自己の取り組みを振り返り考察する。
「看護管理学演習」 目標 3. フィールドワーク、事例検討を通して得た成果の発表と授業案を作成し模擬授業等を実施することができる。 第 25 回　フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定 第 26 回　計画案の資料・媒体の準備を行う。 第 27 回　計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う。 第 28 回　計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする。 第 29 回　実施した内容の改善点や学びと課題を整理する。 第 30 回　本講における取り組みを振り返り、研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察する。	「看護管理学演習」 目標 3. フィールドワーク、事例検討を通して得た成果の発表と授業案を作成し模擬授業を実施することができる。 第 25 回　フィールドワーク結果のまとめと模擬授業の授業案を作成する。 第 26 回　作成した模擬授業案に沿って、模擬授業を行う（対象は中堅層以上の看護職者を想定し、フィールドを検討して選定する。） 第 27 回　作成した模擬授業案に沿って、模擬授業を行う（対象は中堅層以上の看護職者を想定し、フィールドを検討して選定する。） 第 28 回　各自の研究テーマの明確化、課題追及の方法論の選択と妥当性の検討 第 29 回　研究計画書の検討と倫理審査申請書作成の準備 ① 第 30 回　研究計画書の検討と倫理審査申請書作成の準備 ②

（設置の趣旨等を記載した書類） P26 ＤＰ②の「科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力」は、「看護理論」（必修）、「看護実践科目」の４科目（うち「看護教育方法論」、「看護倫理学」が必修）、全ての「看護関連科目」（6 科目のうち２科目が選択必修）、全ての専門科目の「演習」科目（選択必修）及び「看護教育学特論」で養成する。各「演習」科目においては、模擬授業の実施をシラバスに入れ込んでおり、看護教育能力の涵養につなげる。共通科目の「看護教育方法論」（２単位・必修）においては、シラバスの各回において「臨床場面における実践指導」「ＯＪＴ場面における指導」「院内教育」「継続教育」等をテーマとして設定しており、必修科目である本科目を中心として「多様な現場における教育能力の涵養」を推進していく計画である。さらに、専門科目の各演習科目（４単位・選択必修）について、看護教育機関における教育能力だけでなく、臨床現場をはじめとした保健・医療・福祉・教育等の多様な現場における教育能力を涵養できるようにしている。	ＤＰ②の「科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力」は、「看護理論」（必修）、「看護実践科目」の４科目（うち「看護教育方法論」、「看護倫理学」が必修）、全ての「看護関連科目」（6 科目のうち２科目が選択必修）、全ての専門科目の「演習」科目（選択必修）及び「看護教育学特論」で養成する。各「演習」科目においては、模擬授業の実施をシラバスに入れ込んでおり、看護教育能力の涵養につなげる。

（改善事項）大学院看護学研究科　看護学専攻（M）

【教育課程等】

３．ＤＰ③[看護実践能力]において「多職種との連携や協働」を掲げており、これに対応する授業科目として設定している「多職種連携方法論」において、看護師・医師・理学療法・作業療法・栄養士の役割や視点について学ぶ内容となっているように見受けられるものの、チーム医療における他職種の役割を幅広く学ぶ観点から、例えば、薬剤師や臨床検査技師といったその他の職種についても学べる内容とすることが望ましい。

（対応）

審査意見を踏まえ、「多職種連携方法論」（２単位・選択）のシラバスの見直しと修正を行った。チーム医療において他の職種の役割を幅広く学ぶ観点から、薬剤師、臨床検査技師、社会福祉士等をゲストスピーカーとして迎える形で、多職種連携の実際について学ぶ内容を加え、それらの職種についても深く理解できる内容とした。修正を行ったシラバスは、添付資料（１２）として示す。

添付資料（１２）：「多職種連携方法論」シラバス

（新旧対照表）

新	旧
（シラバス） 「多職種連携方法論」 第５回　【講義】多職種連携の実際：看護師・薬剤師他（ゲストスピーカー） 第７回　【講義】多職種連携の実際：医師・臨床検査技師他（ゲストスピーカー） 第９回　【講義】多職種連携の実際：理学療法士・作業療法士他（ゲストスピーカー） 第 11 回　【講義】多職種連携の実際：管理栄養士・社会福祉士他（ゲストスピーカー）	「多職種連携方法論」 第５回　【講義】多職種連携の実際：看護師 第７回　【講義】多職種連携の実際：医師 第９回　【講義】多職種連携の実際：理学療法・作業療法 第 11 回　【講義】多職種連携の実際：栄養士
（設置の趣旨等を記載した書類） P21 「多職種連携方法論」では、保健・医療・福祉の多職種専門職者と信頼関係を構築し、連携及び協働するため、多職種連携における自己の役割と他職種の役割理解、連携のためのアサーティブ・コミュニケーション能力と、専門職としての高い倫理観とプロフェッショナリズムを身につける。チーム医療において他職種の役割を幅広く学ぶ観点から、薬剤師、臨床検査技師、社会福祉士をゲストスピーカーとして迎える形で、多職種連携の実際について学ぶ内容を加え、それらの職種についても深く理解できる内容とした。	「多職種連携方法論」では、保健・医療・福祉の多職種専門職者と信頼関係を構築し、連携及び協働するため、多職種連携における自己の役割と他職種の役割理解、連携のためのアサーティブ・コミュニケーション能力と、専門職としての高い倫理観とプロフェッショナリズムを身につける。

（是正事項）大学院看護学研究科　看護学専攻（M）

【教員組織】
４．専任教員の年齢構成が著しく高齢に偏っていることから、教育研究の継続性の観点から、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にするとともに、教員配置の適正化を図ること。

（対応）
審査意見の是正事項を重く受け止め、教員組織の将来構想について以下の通り説明する。

① ３月の申請で教員審査を受けた１５名の全ての教員の審査結果がマル合及び科目担当「可」であることから、まず、申請計画通り就任教員については法人の規定に基づき６５歳を超えて設定された定年まで、その雇用を継続することとする。

② 上記①の結果、完成年度までに６５歳以上となる教員の割合が７割強（１５名中、１１名）、となっている現状について、教員年齢構成の適正化、大学院教育の継続性等の観点から問題があると認識しつつも、大学院としての設置認可申請に際して、研究科の人材養成目的や３ポリシーを反映した教育課程の構築、或いは研究指導体制を考慮し、その科目担当、論文指導等に相応しいマル合教員を配置したいとの観点から教員組織を編成した結果、ご指摘の通り、専任教員の年齢構成が著しく高齢に偏っている。

これら状況に鑑み、３月申請の設置認可申請書では添付資料２３として、「開設後５年間の人事計画」を添付し、教員組織の適正化を図るべく将来構想について資料を添付した。

今回の審査意見４（是正意見）を受けて、設置趣旨の本文に詳細な説明を加筆するとともに、資料２３についても数値も加筆明示し、この資料２３の欄外に開設後５年間の教員の平均年齢について、年度経過毎の推移を記載し、教員配置の適正化が図られることを数値で示した。

具体的には、開設年度の２０２３（令和５）年度、平均年齢６６．９３歳がその後、６７．９３歳、６５．２５歳、６４．９６歳と毎年、着実に下がっていき、２０２７（令和９年）年度には６１．６５歳と定年年齢を大きく下回ることとなる。

他方、専任教員の６５歳超の割合も計画通り履行することにより、開設年度及び完成年度の７５％がその後、５０％、４４％と下降し、開設後の５年後の２０２７（令和９年）年度には２０％とする計画である。

更に教員の世代別構成は、開設時の２０２３（令和５）年度の７０歳代７名、６０歳代６名、５０歳代３名に比して、２０２７（令和９）年度には７０歳代４名、６０歳代１０名、５０歳代５名、４０歳代１名の教員構成となり、７０歳代から５０歳代及び４０歳代若手にシフトし、教員配置の適正化を図るようにする。

（新旧対照表）

新	旧
（設置の趣旨等を記載した書類） P42 教員組織の継続性については、開設時の教育組織の水準を維持するために、退職後の後任は計画的に補充する。なお、開設時においては、専任教員１５名でスタートし、基礎となる学部である学部教員の教育研究業績が、本研究科の教員として適当な水準に達するのを待って、順次補充していくとともに、新規の学外からの採用人事も考慮し、以下の通り、開設後５年間の人事計画【資料２３】を添付する。この【資料２３】の欄外に開設後５年間の教員の平均年齢について、年度経過毎の推移を記載し、教員配置の適正化が図られることを数値で示した。具体的には、開設年度の２０２３（令和５）年度、平均年齢６６．９３歳がその後、６７．９３歳、６５．２５歳、６４．９６歳と毎年、着実に下がっていき、２０２７（令和９年）年度には６１．６５歳と定年年齢を大きく下回ることとなる。他方、専任教員の６５歳超の割合も計画通り履行することにより、開設年度及び完成年度の７５％がその後、５０％、４４％と下降し、開設後の５年後の２０２７（令和９年）年度には２０％とする 計画である。更に教員の世代別構成は、開設時の２０２３（令和５）年度の７０歳代７名、６０歳代６名、５０歳代３名に比して、２０２７（令和９）年度には７０歳代４名、６０歳代１０名、５０歳代５名、４０歳代１名の教員構成となり、７０歳代から５０歳代及び４０歳代の若手にシフトし、教員配置の適正化を図るようにする。	教員組織の継続性については、開設時の教育組織の水準を維持するために、退職後の後任は計画的に補充する。なお、開設時においては、専任教員１５名でスタートし、基礎となる学部である学部教員の教育研究業績が、本研究科の教員として適当な水準に達するのを待って、順次補充していくとともに、新規の学外からの採用人事も考慮し、以下の通り、開設後５年間の人事計画【資料２３】を添付する。
添付資料（１３）： （設置の趣旨等を記載した書類　資料） 資料２３開設後５年間の人事計画【改訂版】（新）	添付資料（１３）： （設置の趣旨等を記載した書類　資料） 資料２３開設後５年間の人事計画（旧）

審査意見への対応を記載した書類（6 月）（資料）

目　　次

【審査意見１：添付資料】

添付資料（ 1）「看護フィールド演習」シラバス（新:新規追加科目）

添付資料（ 2）「看護理論」シラバス（新・旧）

添付資料（ 3）「看護教育方法論」シラバス（新・旧）

添付資料（ 4）「看護倫理学」シラバス（新・旧）

【審査意見２：添付資料】

添付資料（ 5）「母性・助産看護学演習」シラバス（新・旧）

添付資料（ 6）「小児看護学演習」シラバス（新・旧）

添付資料（ 7）「成人・老年看護学演習」シラバス（新・旧）

添付資料（ 8）「精神看護学演習」シラバス（新・旧）

添付資料（ 9）「地域・在宅看護学演習」シラバス（新・旧）

添付資料（10）「災害看護学演習」シラバス（新・旧）

添付資料（11）「看護管理学演習」シラバス（新・旧）

【審査意見３：添付資料】

添付資料（12）「多職種連携方法論」シラバス（新・旧）

【審査意見４：添付資料】

添付資料（13）資料 23　開設後５年間の人事計画（新・旧）

別添資料（1）

【新】

（新規追加科目）

科目名	看護フィールド演習	科目番号	9	単　位	2	時　間	30
教員名	安藤　純子・臼井　千津	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択	開講学期		前期	

科目概要	看護実践は、これまでの先行研究で明らかにされた科学的根拠をもとに高度な専門的知識を探求することから始まる。また、看護実践は、看護問題や課題をアセスメントし高い倫理観のもと関連する保健・医療・福祉・教育に携わる職種との連携により、アプローチするための能力を高めることが求められている。本科目では、看護実践能力を高めるために、看護問題や課題解決に向けた取り組みを実際の看護の場であるフィールドに出て実施し、自己の取り組みを評価することにより課題を明らかにし看護の質向上に貢献できる能力を養う。（科目責任者：安藤純子）
目標	1．看護実践を支えるための、高度な専門的知識について説明できる。 2．科学的根拠に基づいた看護実践について調べることができる。 3．臨床で求められる高い倫理観について評価できる。 4．多職種との連携・協働のあり方について参加することができる。 5．看護実践において課題解決に貢献できる実践能力について学びを深めることができる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	看護現場における看護課題・病棟が抱える課題・患者の問題等を文献調査する	安藤　純子
第2回	看護現場における看護課題の対策について文献検討を行い、課題解決の方法を検討する	安藤　純子
第3回	看護実践のための病院でのオリエンテーションを受け、病棟での看護課題を把握する	安藤　純子
第4回	病棟での看護課題に関連する情報収集と関連要因を明確化する	安藤　純子
第5回	病棟での看護課題解決に向けて、具体的な対応策をスタッフとともにディスカッションする	安藤　純子
第6回	病棟での看護課題解決に向けて、具体的な対応策を提案・実施する	安藤　純子
第7回	病棟での看護課題解決に向けて、具体的な対応策を提案・実施後、その結果を振り返る	安藤　純子
第8回	実施結果とアプローチについて帰納法、演繹法を用いて振り返り、必要があれば再実施を試みる	安藤　純子
第9回	必要に応じて倫理的配慮をし、課題解決に向けた判断と行動方法について再検討する	安藤　純子
第10回	必要に応じて多職種との連携・協働について、実際からを学ぶ	臼井　千津
第11回	課題解決の必要に応じて他部門とのケースカンファレンスに参加し、臨地での多職種との連携・協働を行う	臼井　千津
第12回	課題解決に向けて計画、看護実践し、結果までの過程について考察する	臼井　千津
第13回	看護実践における課題解決の実践・結果・考察をまとめ、発表の準備をする	臼井　千津
第14回	看護実践における課題解決の学びをまとめ、P.P.で説明する	臼井　千津
第15回	まとめ／看護実践において課題解決に貢献できる実践能力に関する自己の学修課題の明確化した内容をまとめ、レポートを提出する	安藤　純子・臼井　千津

評価方法	②発表内容30%　③報告書70 %
テキスト，参考書.	1．鈴木敏恵（2012）．プロジェクト学習の基本と手法―課題解決力と論理的思考力が身につく．教育出版. 2．鈴木敏恵（2010）．看護師の実践力と課題解決力を実現する!ポートフォリオとプロジェクト学習．医学書院. その他、必要な図書、研究論文は、講義内で紹介する
履修上の注意点	臨地での指導者やスタッフの協力が得られるように調整する 積極的に討論に参加することが望まれる。

別添資料（2）　【新】

科目名	看護理論	科目番号	2	単　位	2	時　間	30
教員名	木下　幸代 ・ 大石 ふみ子	科目種別	共通科目	開講年次		1 年	
		必修・選択他	必修	開講学期		後期	

科目概要	看護学および科学哲学の歴史を振り返り、卓越した看護実践の基盤となる看護学の理論体系および看護に関する諸理論と看護現象との関係について理解を深め、看護理論を実践および研究に活用する力を養う。（科目責任者：木下幸代）
目　標	1．看護学および科学哲学の歴史について概説できる。 2．看護学における主要な理論・概念を、看護現象との関連において説明できる。 3．関心のある看護理論について、その概要を説明できる。 4．看護理論を看護実践に活用する方法について述べることができる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	看護学とは、看護理論とは	木下　幸代
	第2回	看護学・看護理論の歴史	木下　幸代
	第3回	看護理論の構成要素	木下　幸代
	第4回	ケアリングの概観	木下　幸代
	第5回	大理論と中範囲理論　看護現象の一般化と限定的一般化について	大石 ふみ子
	第6回	中範囲理論の看護への活用 1-1： A. Strauss ＆ J. Corbin慢性疾患の病みの軌跡の考え方	木下　幸代
	第7回	中範囲理論の看護への活用 1-2： A. Strauss ＆ J. Corbin慢性疾患の病みの軌跡の実際	木下　幸代
	第8回	中範囲理論の看護への活用 2（選択した中範囲理論の概要と実践への適用）：プレゼンテーション	大石 ふみ子
	第9回	中範囲理論の看護への活用 3（選択した中範囲理論の概要と実践への適用）：プレゼンテーション	大石 ふみ子
	第10回	中範囲理論の看護への活用 4（選択した中範囲理論の概要と実践への適用）：プレゼンテーション	大石 ふみ子
	第11回	看護理論の概要と看護への活用：Margaret A. Newman	大石 ふみ子
	第12回	看護理論の概要と看護への活用：Leininger　プレゼンテーション	木下　幸代
	第13回	看護理論の概要と看護への活用：Orem　　プレゼンテーション	木下　幸代
	第14回	看護理論の概要と看護への活用：Benner　　プレゼンテーション	木下　幸代
	第15回	まとめ：看護理論の実践への活用　ディスカッション	木下　幸代

評価方法	授業中の発表・発表資料(50%)、単位認定レポート(50%)

テキスト 参考書	テキスト　１．筒井真優美編(2020)．看護理論家の業績と理論評価，第2版．医学書院. ２．野川道子編著(2016)．看護実践に活かす中範囲理論，第2版．メヂカルフレンド社. 参 考 書　１．筒井真優美編(2019)．看護理論－看護理論20の理解と実践への応用，改訂第3版．南江堂. ２． Marriner-Tomey & Alligood, 都留伸子監訳(2004)．看護理論家とその業績，第3版．医学書院. ３．黒田裕子監修(2016)．やさしく学ぶ看護理論，改訂4版． 日総研出版. ４． Fawcett, J.，太田喜久子, 筒井真優美監訳(2008). フォーセット看護理論の分析と評価，新訂版．医学書院. ５． 黒田裕子監修(2015)．看護診断のためのよくわかる中範囲理論，第2版. 学研. ６． 佐藤栄子編著(2009)．中範囲理論入門，第2版．日総研. ７． Woog編，黒江ゆり子，市橋桂子，宝田穂訳(2009)．慢性疾患の病みの軌跡，第1版7刷．医学書院.
履修上の注意点	授業はゼミ形式で行う。

【旧】

科目名	看護理論	科目番号	2	単　位	2	時　間	30
教員名	木下　幸代 ・ 大石 ふみ子	科目種別	共通科目	開講年次		1 年	
		必修・選択他	必修	開講学期		後期	

科目概要	看護学および科学哲学の歴史を振り返り、卓越した看護実践の基盤となる看護学の理論体系および看護に関する諸理論と看護現象との関係について理解を深め、看護理論を実践および研究に活用する力を養う。（科目責任者：木下幸代）
目　標	1．看護学および科学哲学の歴史について概説できる。 2．看護学における主要な理論・概念を、看護現象との関連において説明できる。 3．関心のある看護理論について、その概要を説明できる。 4．看護理論を看護実践に活用する方法について述べることができる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	看護学とは、看護理論とは	木下　幸代
第2回	看護学・看護理論の歴史	木下　幸代
第3回	看護理論の構成要素	木下　幸代
第4回	ケアリングの概観	木下　幸代
第5回	大理論と中範囲理論　看護現象の一般化と限定的一般化について	大石 ふみ子
第6回	中範囲理論の看護への活用 1-1： A. Strauss ＆ J. Corbin慢性疾患の病みの軌跡の考え方	木下　幸代
第7回	中範囲理論の看護への活用 1-2： A. Strauss ＆ J. Corbin慢性疾患の病みの軌跡の実際	木下　幸代
第8回	中範囲理論の看護への活用 2 (選択した中範囲理論の概要と実践への適用)：プレゼンテーション	大石 ふみ子
第9回	中範囲理論の看護への活用 3 (選択した中範囲理論の概要と実践への適用)：プレゼンテーション	大石 ふみ子
第10回	中範囲理論の看護への活用 4 (選択した中範囲理論の概要と実践への適用)：プレゼンテーション	大石 ふみ子
第11回	看護理論の概要と評価：Margaret A. Newman	大石 ふみ子
第12回	看護理論の概要と評価：Leininger　プレゼンテーション	木下　幸代
第13回	看護理論の概要と評価：Orem　　プレゼンテーション	木下　幸代
第14回	看護理論の概要と評価：Benner　　プレゼンテーション	木下　幸代
第15回	まとめ：看護理論の実践への活用　ディスカッション	木下　幸代

評価方法	授業中の発表・発表資料(50%)、単位認定レポート(50%)

テキスト 参 考 書	テキスト　１．筒井真優美編(2020)．看護理論家の業績と理論評価，第2版．医学書院. ２．野川道子編著(2016)．看護実践に活かす中範囲理論，第2版．メヂカルフレンド社. 参 考 書　１．筒井真優美編(2019)．看護理論－看護理論20の理解と実践への応用，改訂第3版．南江堂. ２． Marriner-Tomey & Alligood, 都留伸子監訳(2004)．看護理論家とその業績，第3版．医学書院. ３．黒田裕子監修(2016)．やさしく学ぶ看護理論，改訂4版． 日総研出版. ４． Fawcett, J.，太田喜久子, 筒井真優美監訳(2008). フォーセット看護理論の分析と評価，新訂版．医学書院. ５． 黒田裕子監修(2015)．看護診断のためのよくわかる中範囲理論，第2版. 学研. ６． 佐藤栄子編著(2009)．中範囲理論入門，第2版．日総研. ７． Woog編，黒江ゆり子，市橋桂子，宝田穂訳(2009)．慢性疾患の病みの軌跡，第1版7刷．医学書院.
履修上の 注意点	授業はゼミ形式で行う。

別添資料（3）　　【新】

科目名	看護教育方法論	科目番号	5	単　位	2	時　間	30
教員名	平賀　元美	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	必修	開講学期		前期	

科目概要	本科目では、時代とともに変化した看護教育制度と教育課程について学修するとともに、看護教育の特徴を理解する。 看護教育・保健医療福祉の場における看護職者育成に向けて、効果的な授業設計、教育方法や評価の方法を習得するとともにこれらを支える諸理論についても理解を深める。また、社会のニーズに応えられる看護専門職の育成と役割拡大のための継続教育、生涯教育の在り方を学修し、専門職としてのキャリア開発について探究する。さらに、看護実践の質を高めるための方法や看護教育をめぐる現代の課題とその解決方法を探究する能力を養う。
目　標	1．社会・医療環境の変化と看護教育の変遷について説明できる 2．看護基礎教育におけるカリキュラムとその特徴について説明できる 3．学習理論と看護教育への応用、成人学習、継続学習、生涯学習の必要性とその特徴について説明できる 4．看護教育の特徴を踏まえ学習理論を参考に、授業設計ができる 5．看護実践を支える看護教育の在り方、看護実践を高めるための手法を用いた効果的な指導が説明できる 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	授業の進め方のオリエンテーション　課題の提示と参考図書の紹介	平賀　元美
	第2回	社会情勢および保健・医療・福祉の変化と看護基礎教育の変遷	平賀　元美
	第3回	看護教育制度とカリキュラムの特徴	平賀　元美
	第4回	看護教育と学習理論①　　動機づけ理論, 発見学習理論	平賀　元美
	第5回	看護教育と学習理論②　　看護教育と成人学習モデル	平賀　元美
	第6回	看護教育の対象の理解　　基礎教育と継続教育の対象	平賀　元美
	第7回	授業設計と教育評価①　　教育目標と教育内容の抽出	平賀　元美
	第8回	授業設計と教育評価②　　単元の考察(教材観、指導観、学習者観)	平賀　元美
	第9回	授業設計と教育評価③　　学習指導計画と評価	平賀　元美
	第10回	授業設計と教育評価④	平賀　元美
	第11回	授業設計と教育評価⑤　　授業の実施と評価	平賀　元美
	第12回	臨床場面における実践指導の在り方　OJT場面における指導	平賀　元美
	第13回	看護における継続教育と生涯教育　院内教育, クリニカルラダー, プリセプターシップ(病院で実施されている継続教育、生涯教育等への参画)	平賀　元美
	第14回	看護における継続教育と生涯教育　院内教育, クリニカルラダー, プリセプターシップ(病院で実施されている継続教育、生涯教育等への参画の報告)	平賀　元美
	第15回	まとめ	平賀　元美

評価方法	レポート内容(60%)　グループディスカッションでの課題の取り組みと討論の内容(４０%)
テキスト 参 考 書	テキスト　：　特に指定しない。 参考書　　１．舟島なをみ編(2020/1).「看護学教育学における授業展開　第2版」, 医学書院. ２．田島桂子編(2009/6).「看護学教育評価の基礎と実際 看護実践能力育成の充実に向けて」, 医学書院, 第2版.
履修上の 注意点	1. 授業はゼミ形式で行う。 2. 事前に課題を提示するので、十分な文献検索を行いプレゼンテーションの準備を行うこと。

【旧】

科目名	看護教育方法論	科目番号	5	単　位	2	時　間	30
教員名	平賀　元美	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	必修	開講学期		前期	

科目概要	本科目では、時代とともに変化した看護教育制度と教育課程について学修するとともに、看護教育の特徴を理解する。 看護教育・保健医療福祉の場における看護職者育成に向けて、効果的な授業設計、教育方法や評価の方法を習得するとともにこれらを支える諸理論についても理解を深める。また、社会のニーズに応えられる看護専門職の育成と役割拡大のための継続教育、生涯教育の在り方を学修し、専門職としてのキャリア開発について探究する。さらに、看護実践の質を高めるための方法や看護教育をめぐる現代の課題とその解決方法を探究する能力を養う。
目　標	1．社会・医療環境の変化と看護教育の変遷について説明できる 2．看護基礎教育におけるカリキュラムとその特徴について説明できる 3．学習理論と看護教育への応用、成人学習、継続学習、生涯学習の必要性とその特徴について説明できる 4．看護教育の特徴を踏まえ学習理論を参考に、授業設計ができる 5．看護実践を支える看護教育の在り方、看護実践を高めるための手法を用いた効果的な指導が説明できる 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	授業の進め方のオリエンテーション　課題の提示と参考図書の紹介	平賀　元美
	第2回	社会情勢および保健・医療・福祉の変化と看護基礎教育の変遷	平賀　元美
	第3回	看護教育制度とカリキュラムの特徴	平賀　元美
	第4回	看護教育と学習理論①　　動機づけ理論, 発見学習理論	平賀　元美
	第5回	看護教育と学習理論②　　看護教育と成人学習モデル	平賀　元美
	第6回	看護教育の対象の理解　　基礎教育と継続教育の対象	平賀　元美
	第7回	授業設計と教育評価①　　教育目標と教育内容の抽出	平賀　元美
	第8回	授業設計と教育評価②　　単元の考察(教材観、指導観、学習者観)	平賀　元美
	第9回	授業設計と教育評価③　　学習指導計画と評価	平賀　元美
	第10回	授業設計と教育評価④　　学習指導案	平賀　元美
	第11回	授業設計と教育評価⑤　　授業の実施と評価	平賀　元美
	第12回	臨床場面における実践指導の在り方　OJT場面における指導	平賀　元美
	第13回	看護における継続教育と生涯教育　院内教育, クリニカルラダー, プリセプターシップ	平賀　元美
	第14回	看護における継続教育と生涯教育　学習過程の特性と教授法	平賀　元美
	第15回	まとめ	平賀　元美

評価方法	レポート内容(60%)　グループディスカッションでの課題の取り組みと討論の内容(４０%)
テキスト 参 考 書	テキスト　：　特に指定しない。 参考書　　１．舟島なをみ編(2020/1).　「看護学教育学における授業展開　第2版」, 医学書院. ２．田島桂子編(2009/6).「看護学教育評価の基礎と実際 看護実践能力育成の充実に向けて」, 医学書院, 第2版.
履修上の 注意点	1. 授業はゼミ形式で行う。 2. 事前に課題を提示するので、十分な文献検索を行いプレゼンテーションの準備を行うこと。

別添資料（4）　【新】

科目名	看護倫理学	科目番号	6	単　位	2	時　間	30
教員名	屋良　朝彦・白鳥さつき	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	必修	開講学期		後期	

科目概要	臨床における様々な倫理的問題・葛藤を取り上げ、患者や家族、医療従事者間での倫理的調整を行うための基礎的知識を学ぶ。倫理の原則、生命倫理と看護倫理に関する動向、実践における倫理的諸問題などについて学び、看護専門職としての倫理観や倫理的態度について考える能力を養う。さらに医療チームでの倫理的調整を行うための知識を学修する。 これらの知識を活用して事例から倫理的課題を分析し、医療チームにおける看護師の役割と効果的な介入および意思決定支援について考察する。学修を通して看護専門職としての倫理的感受性を高め、倫理的課題を調整する能力を養う。（科目責任者：屋良朝彦）
目　標	1．倫理の原則、生命倫理と看護倫理に関する動向を理解し、説明できる。
	2．臨床場面の倫理的課題について、事例から倫理的ジレンマの分析と意思決定のプロセスを表現できる。
	3．看護専門職としての倫理観や倫理的態度について自己の考えを深め、プレゼンテーションできる。
	〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉
	DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。
	DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。
	DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	オリエンテーション　倫理と法律　倫理と哲学	屋良朝彦
第2回	倫理の理論の理解：倫理学とは何か、様々な倫理理論 ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言など	屋良　朝彦
第3回	看護理論の基盤：医療倫理の4原則	屋良　朝彦
第4回	医学・医療における倫理指針　先端医療における倫理指針	屋良　朝彦
第5回	臨床倫理　インフォームドコンセントと意思決定支援	屋良　朝彦
第6回	看護倫理　ケースに見る倫理的問題　　がんの告知、安楽死、尊厳死	屋良　朝彦
第7回	看護倫理　ケースに見る倫理的問題　　出生前診断、在宅患者への医療・介護	屋良　朝彦
第8回	研究倫理　ヘルシンキ宣言　患者の権利と擁護　個人情報保護	屋良　朝彦
第9回	研究倫理　看護研究に必要な倫理原則　倫理委員会の役割と現状	屋良　朝彦
第10回	看護倫理の基礎知識　看護者の倫理綱領　倫理カンファレンス　意思決定への支援	屋良　朝彦
第11回	倫理調整のための事例分析　　多職種による倫理カンファレンスまたはDeathカンファレンスに参加し、事例分析の方法と多職種協働における看護の役割について学習する。	白鳥さつき
第12回	倫理調整のための事例分析　各自が体験した医療の場で起こった倫理課題について分析する。	白鳥さつき
第13回	倫理調整のための事例分析　各自が体験した教育の場で起こった倫理課題について分析する。	白鳥さつき
第14回	倫理調整のための事例分析　成果発表	白鳥さつき
第15回	倫理調整のための事例分析　成果発表とまとめ	白鳥さつき

評価方法	グループディスカッションへの参加度(30%)，課題の発表・発言(20%)，発表内容(20%)，レポート内容(30%)
テキスト 参 考 書	テキスト　：　指定しない。　適宜配布資料あり。 参考書　1．サラ T. フライ(著)，片田 範子(翻訳)(2010)．看護実践の倫理―倫理的意思決定のためのガイド、日本看護協会出版会. 2．赤林 朗，家永 登，中尾 久子(著)(2002)．ケースブック医療倫理 、医学書院. 3．福井 次矢，浅井 篤，大西 基喜(2003)．臨床倫理学入門、 医学書院.
履修上の 注意点	1. 授業はゼミ形式で行う。 2. 事例分析に関するデータや文献、新聞記事などを資料とするので、事前に収集しておくこと。

科目名	看護倫理学	科目番号	6	単　位	2	時　間	30
教員名	屋良　朝彦・白鳥さつき	科目種別	共通科目	開講年次		1 年	
		必修・選択他	必修	開講学期		後期	

科目概要	臨床における様々な倫理的問題・葛藤を取り上げ、患者や家族、医療従事者間での倫理的調整を行うための基礎的知識を学ぶ。倫理の原則、生命倫理と看護倫理に関する動向、実践における倫理的諸問題などについて学び、看護専門職としての倫理観や倫理的態度について考える能力を養う。さらに医療チームでの倫理的調整を行うための知識を学修する。 これらの知識を活用して事例から倫理的課題を分析し、医療チームにおける看護師の役割と効果的な介入および意思決定支援について考察する。学修を通して看護専門職としての倫理的感受性を高め、倫理的課題を調整する能力を養う。（科目責任者：屋良朝彦）
目　標	1．倫理の原則、生命倫理と看護倫理に関する動向を理解し、説明できる。 2．臨床場面の倫理的課題について、事例から倫理的ジレンマの分析と意思決定のプロセスを表現できる。 3．看護専門職としての倫理観や倫理的態度について自己の考えを深め、プレゼンテーションできる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	オリエンテーション　倫理と法律　倫理と哲学	屋良朝彦
第2回	倫理の理論の理解：倫理学とは何か、様々な倫理理論 ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言など	屋良　朝彦
第3回	看護理論の基盤：医療倫理の4原則	屋良　朝彦
第4回	医学・医療における倫理指針　先端医療における倫理指針	屋良　朝彦
第5回	臨床倫理　インフォームドコンセントと意思決定支援	屋良　朝彦
第6回	看護倫理　ケースに見る倫理的問題　　がんの告知、安楽死、尊厳死	屋良　朝彦
第7回	看護倫理　ケースに見る倫理的問題　　出生前診断、在宅患者への医療・介護	屋良　朝彦
第8回	研究倫理　ヘルシンキ宣言　患者の権利と擁護　個人情報保護	屋良　朝彦
第9回	研究倫理　看護研究に必要な倫理原則　倫理委員会の役割と現状	屋良　朝彦
第10回	看護倫理の基礎知識　看護者の倫理綱領　倫理カンファレンス　意思決定への支援	屋良　朝彦
第11回	倫理調整のための事例分析	白鳥さつき
第12回	倫理調整のための事例分析	白鳥さつき
第13回	倫理調整のための事例分析	白鳥さつき
第14回	倫理調整のための事例分析　成果発表	白鳥さつき
第15回	倫理調整のための事例分析　成果発表とまとめ	白鳥さつき

評価方法	グループディスカッションへの参加度(30%)，課題の発表・発言(20%)，発表内容(20%)，レポート内容(30%)
テキスト 参 考 書	テキスト　：　指定しない。　適宜配布資料あり。 参考書　1．サラ T. フライ(著)，片田 範子(翻訳)(2010)．看護実践の倫理―倫理的意思決定のためのガイド、日本看護協会出版会. 2．赤林 朗，家永 登，中尾 久子(著)(2002)．ケースブック医療倫理 、医学書院. 3．福井 次矢，浅井 篤，大西 基喜(2003)．臨床倫理学入門、 医学書院.
履修上の 注意点	1. 授業はゼミ形式で行う。 2. 事例分析に関するデータや文献、新聞記事などを資料とするので、事前に収集しておくこと。

別添資料（5）　【新】

科目名	母性・助産看護学演習	科目番号	18	単　位	4	時　間	60
教員名	清水　嘉子	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目では、周産期およびそれぞれのライフステージにある女性に対して、効果的な看護援助方法を提供するためのコンサルテーション能力を養い、援助方法を評価するための看護研究方法について検討する。 フィールドワークの課題の明確化をふまえて課題を解決するための計画の立案と実施、結果のまとめ、報告書を作成する過程を経験する。具体的には、特論で学修した母性看護学領域における様々な課題、または関心のあるテーマを掘り下げて研究的に明らかにしながら絞り込み、一つのテーマを取り上げる。フィールドワークの課題を明確にし、その課題に取り組み、研究能力、看護実践能力を培う。 テーマを取り上げた理由を明確にしながら、さらに研究的に取り組みながらゼミ形式で討議し、テーマについて深めながら特別研究Ⅰ、Ⅱに繋げていく。さらに、その一部を取り上げ模擬授業計画を立案し、実施し評価を受けることで教育能力を養う。
目　標	1．自己のフィールドワークの課題を明確化し、そのプロセスにおいて研究能力を培う。
	2．フィールドワークの目的、方法のを設定し施設との交渉を行い、フィールドワークを実施し、看護実践能力を培う。
	3．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業等計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉
	DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。
	DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。
	DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	演習の課題と具体的な進め方についてのガイダンス ・フィールドワークと模擬授業の実施により教育・研究・実践能力を養う ・フィールドワークの例の紹介と具体的な絞り込みについて ・フィールドワークの実施について ・フィールドワークの報告書の作成について ・模擬授業について	清水　嘉子
	第2回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、教育・研究・実践の課題としているテーマの周辺の研究成果を整理し自らの課題としているテーマについて焦点化する。	清水　嘉子
	第3回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、アプローチの方法論を検討する。	清水　嘉子
	第4回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、量的・質的研究の文献レビュー、テーマに関するその他の文献を調べる。特論でまとめた内容を深めていくことも可能	清水　嘉子
	第5回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 立案されたフィールドワーク計画書の発表	清水　嘉子
	第6回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 立案されたフィールドワーク計画書の発表後の修正	清水　嘉子
	第7回	施設への公文書を発送する。施設責任者と連絡をとる。	清水　嘉子
	第8回	具体的な交渉を直接施設と行った後に計画の立案をする。	清水　嘉子
	第9回	フィールドワーク事前準備　フィールドワークを実施するための最終準備状況の確認	清水　嘉子
	第10回	フィールドワークを行う（１回）フィールドまたは調査のための調整を行う	清水　嘉子

	回数	授業計画・内容	担当教員
	第11回	フィールドワークを行う（２回）フィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	清水　嘉子
	第12回	フィールドワークを行う（３回）異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	清水　嘉子
	第13回	フィールドワークを行う（４回）さらに異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	清水　嘉子
	第14回	フィールドワークを行う（５回）収集したデータ、調査結果を整理する	清水　嘉子
	第15回	フィールドワークを行う（６回）データ収集とフィールドへのフィードバックをする	清水　嘉子
	第16回	フィールドワークの事後整理	清水　嘉子
	第17回	フィールドワーク後の報告書作成	清水　嘉子
	第18回	フィールドワーク後の発表準備	清水　嘉子
	第19回	フィールドワークの成果発表。学生、教員が参加し意見交換をする	清水　嘉子
	第20回	発表後に報告書に対する指導を受け修正する	清水　嘉子
	第21回	発表後に研究・看護実践の課題や支援の方略について考察し報告書を完成させる。	清水　嘉子
	第22回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定	清水　嘉子
	第23回	決定された課題に対する資料を集める	清水　嘉子
	第24回	計画案の媒体等の準備を行う	清水　嘉子
	第25回	計画案を作成する	清水　嘉子
	第26回	計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う	清水　嘉子
	第27回	計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする	清水　嘉子
	第28回	実施した内容の改善点や学びと課題を整理する	清水　嘉子
	第29回	修正された計画案を完成させる	清水　嘉子
	第30回	本講における取り組みを振り返り、研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察する	清水　嘉子
	〈フィールドワーク例〉 a．施設における妊婦に対するフットケアの看護の実際と課題 b．開発途上国のTBAの実態とTBAに対して行う教育 c．施設における母乳栄養の確立に対する看護の参加観察と評価 d．社会的リスクのある妊産婦に関わる助産師の心理的ストレスの状況 e．妊婦の腰痛を緩和・改善するための体操の検討と実施 f．分娩期にある産婦の産通体験を緩和するための教育と援助		
評価方法	フィールドワーク発表、 報告書(70%)，　模擬授業(30%)		
テキスト，参考書.	テキスト　：　随時文献・図書を紹介する		
	参考書　：　適宜提示する		
履修上の注意点	ゼミ形式で進められることから、積極的な姿勢で臨むこと。		

添付資料（5）　　【旧】

科目名	母性・助産看護学演習	科目番号	17	単　位	4	時　間	60
教員名	清水　嘉子	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目では、周産期およびそれぞれのライフステージにある女性に対して、効果的な看護援助方法を提供するためのコンサルテーション能力を養い、援助方法を評価するための看護研究方法について検討する。 フィールドワークの課題の明確化をふまえて課題を解決するための計画の立案と実施、結果のまとめ、報告書を作成する過程を経験する。具体的には、特論で学修した母性看護学領域における様々な課題、または関心のあるテーマを掘り下げて研究的に明らかにしながら絞り込み、一つのテーマを取り上げる。フィールドワークの課題を明確にし、その課題に取り組み、研究能力、看護実践能力を培う。 テーマを取り上げた理由を明確にしながら、さらに研究的に取り組みながらゼミ形式で討議し、テーマについて深めながら特別研究Ⅰ、Ⅱに繋げていく。さらに、その一部を取り上げ模擬授業計画を立案し、実施し評価を受けることで教育能力を養う。
目　標	1．自己のフィールドワークの課題を明確化し、そのプロセスにおいて研究能力を培う。 2．フィールドワークの目的、方法のを設定し施設との交渉を行い、フィールドワークを実施し、看護実践能力を培う。 3．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	演習の課題と具体的な進め方についてのガイダンス ・フィールドワークと模擬授業の実施により教育・研究・実践能力を養う ・フィールドワークの例の紹介と具体的な絞り込みについて ・フィールドワークの実施について ・フィールドワークの報告書の作成について ・模擬授業について	清水　嘉子
第2回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、教育・研究・実践の課題としているテーマの周辺の研究成果を整理し自らの課題としているテーマについて焦点化する。	清水　嘉子
第3回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、アプローチの方法論を検討する。	清水　嘉子
第4回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、量的・質的研究の文献レビュー、テーマに関するその他の文献を調べる。特論でまとめた内容を深めていくことも可能	清水　嘉子
第5回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 立案されたフィールドワーク計画書の発表	清水　嘉子
第6回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 立案されたフィールドワーク計画書の発表後の修正	清水　嘉子
第7回	施設への公文書を発送する。施設責任者と連絡をとる。	清水　嘉子
第8回	具体的な交渉を直接施設と行った後に計画の立案をする。	清水　嘉子
第9回	フィールドワーク事前準備　フィールドワークを実施するための最終準備状況の確認	清水　嘉子
第10回	フィールドワークを行う（１回）フィールドまたは調査のための調整を行う	清水　嘉子

	回数	授業計画・内容	担当教員
	第11回	フィールドワークを行う（２回）フィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	清水　嘉子
	第12回	フィールドワークを行う（３回）異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	清水　嘉子
	第13回	フィールドワークを行う（４回）さらに異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	清水　嘉子
	第14回	フィールドワークを行う（５回）収集したデータ、調査結果を整理する	清水　嘉子
	第15回	フィールドワークを行う（６回）データ収集とフィールドへのフィードバックをする	清水　嘉子
	第16回	フィールドワークの事後整理	清水　嘉子
	第17回	フィールドワーク後の報告書作成	清水　嘉子
	第18回	フィールドワーク後の発表準備	清水　嘉子
	第19回	フィールドワークの成果発表。学生、母性・助産等の教員が参加し意見交換をする	清水　嘉子
	第20回	発表後に報告書に対する指導を受け修正する	清水　嘉子
	第21回	発表後に研究・看護実践の課題や支援の方略について考察し報告書を完成させる。	清水　嘉子
	第22回	フィールドワークのテーマに関連した講義テーマを絞り、模擬授業計画案を作成する	清水　嘉子
	第23回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、模擬授業計画案を作成する	清水　嘉子
	第24回	模擬授業の資料の準備を行う	清水　嘉子
	第25回	模擬授業のＰＰの準備を行う	清水　嘉子
	第26回	模擬授業計画案に沿って模擬授業のプレ実施を行う。実施後修正を行う	清水　嘉子
	第27回	模擬授業計画案に沿って模擬授業を実施する。学生、母性・助産等の教員が参加し意見交換をする	清水　嘉子
	第28回	模擬授業の改善点や模擬授業に対する学びと課題を整理する	清水　嘉子
	第29回	修正された模擬授業案を完成させる	清水　嘉子
	第30回	本講における取り組みを振り返り、研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察する	清水　嘉子
	〈フィールドワーク例〉 a．施設における妊婦に対するフットケアの看護の実際と課題 b．開発途上国のTBAの実態とTBAに対して行う教育 c．施設における母乳栄養の確立に対する看護の参加観察と評価 d．社会的リスクのある妊産婦に関わる助産師の心理的ストレスの状況 e．妊婦の腰痛を緩和・改善するための体操の検討と実施 f．分娩期にある産婦の産通体験を緩和するための教育と援助		
評価方法	フィールドワーク発表、 報告書(70%)，　模擬授業(30%)		
テキスト，参考書.	テキスト　：　随時文献・図書を紹介する		
	参考書　：　適宜提示する		
履修上の注意点	ゼミ形式で進められることから、積極的な姿勢で臨むこと。		

別添資料（6）　【新】

科目名	小児看護学演習	科目番号	20	単　位	4	時　間	60
教員名	金城　やす子	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目は、小児看護学特論の講義内容を深めるため、また効果的な看護の援助方法を構築・評価するためフィールドワークの実践を通して小児看護の特徴や課題について学修する。看護研究方法については、文献クリティーク、ディスカッションに重点を置き、自己の課題の明確化を図る。 自己の課題の明確化、 フィールドワークの課題の明確化をふまえ、課題解決のための計画立案・実施、結果のまとめ、報告書の作成の過程を経験する。特論で学修した小児看護学領域における様々な課題、または関心のあるテーマを掘り下げて研究的に明らかにしながら絞り込み、一つのテーマを取り上げる。フィールドワークでは明確化した課題に取り組み、研究能力、看護実践能力を培う。課題解決に向けて研究的に取り組み、テーマをさらに深めることで特別研究Ⅰ、Ⅱに繋げる。フィールドワークで得た結果の一部を取り上げ、模擬授業を計画・立案し、実施し評価を受けることで教育能力の向上を図る。
目　標	1．自己のフィールドワークの課題を明確化し、そのプロセスにおいて研究能力を培う。 2．フィールドワークの目的、方法を設定し施設との交渉を行い、フィールドワークを実施し、看護実践能力を培う。 3．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業等計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	小児看護学演習の学習の進め方に関するガイダンス ・文献レビュー及び文献分析の方法（看護研究能力の育成） ・フィールドワークと模擬授業の実施（教育・研究・実践能力を養う） ・フィールドワーク課題の具体的な絞り込みについて ・フィールドワークの実施について ・フィールドワークの報告書の作成について ・模擬授業について(教育能力の育成)	金城やす子
	第2回	小児看護学で取り組む課題を明確にする 事例研究及び文献分析の方法を学ぶための課題を明確にする	金城やす子
	第3回	文献クリティーク①　クリティークとは、クリティークの方法について学ぶ 資料を読み解く	金城やす子
	第4回	文献クリティーク②　資料をもとにディスカッション 資料整理およびまとめ（要約の作成）	金城やす子
	第5回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、教育・研究・実践の課題としているテーマの周辺の研究成果を整理し自らの課題としているテーマについて焦点化する。	金城やす子
	第6回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、アプローチの方法論を検討する。 量的・質的研究の文献レビュー、テーマに関するその他の文献を調べる。	金城やす子
	第7回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 立案されたフィールドワーク計画書の発表	金城やす子
	第8回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 立案されたフィールドワーク計画書の発表後の修正	金城やす子
	第9回	フィールドワーク実施に向けた調整 施設への公文書を発送する。施設責任者と連絡をとる。 具体的な交渉を直接施設と行った後に計画の立案をする。	金城やす子
	第10回	フィールドワーク実施に向けた調整 施設への公文書を発送する。施設責任者と連絡をとる。 具体的な交渉を直接施設と行った後に計画の立案をする。	金城やす子

	回数	授業計画・内容	担当教員
	第11回	フィールドワーク事前準備　フィールドワークを実施するための最終準備状況の確認	金城やす子
	第12回	フィールドワークを行う（１回）フィールドまたは調査のための調整を行う	金城やす子
	第13回	フィールドワークを行う（２回）フィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	金城やす子
	第14回	フィールドワークを行う（３回）フィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	金城やす子
	第15回	フィールドワークを行う（４回）収集したデータ、調査結果を整理する	金城やす子
	第16回	フィールドワークを行う（５回）収集したデータ、調査結果を整理する	金城やす子
	第17回	フィールドワークを行う（６回）データ収集とフィールドへのフィードバックをする	金城やす子
	第18回	フィールドワークの事後整理、報告書作成	金城やす子
	第19回	フィールドワーク後の発表準備	金城やす子
	第20回	フィールドワークの成果発表。学生・教員間でのディスカッション	金城やす子
	第21回	発表後に研究・看護実践の課題や支援の方略について考察し報告書を完成させる。	金城やす子
	第22回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定	金城やす子
	第23回	決定された課題に対する資料を集める	金城やす子
	第24回	計画案の媒体等の準備を行う	金城やす子
	第25回	計画案を作成する	金城やす子
	第26回	計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う	金城やす子
	第27回	計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする	金城やす子
	第28回	実施した内容の改善点や学びと課題を整理する	金城やす子
	第29回	修正された計画案を完成させる	金城やす子
	第30回	学修の振り返りを通して、研究能力・教育能力・実践能力獲得状況について考察する	金城やす子
	〈フィールドワーク例〉 a. 小児病棟の看護の実際と課題 b. 小児在宅医療の実際と課題 c. 保育園看護師の実際と課題（サポートシステム構築に向けての課題） d. 幼児の生活リズム形成に関する課題と調査 e. 保育における保護者支援の課題 f. 医療保育（病棟保育）における課題と子どもの権利擁護		
評価方法	フィールドワーク発表、 報告書(60%)， 模擬授業(20%)、文献クリティーク等への参画度（20%）		
テキスト，参考書	テキスト　：　.随時文献・図書を紹介する		
	参考書　：　適宜提示する		
履修上の注意点	ゼミ形式で進められることから、積極的な姿勢で臨むこと。		

科目名	小児看護学演習	科目番号	19	単　位	4	時　間	60
教員名	金城　やす子	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目は、小児看護学特論の講義内容を深めるため、また効果的な看護の援助方法を構築・評価するためフィールドワークの実践を通して小児看護の特徴や課題について学修する。看護研究方法については、文献クリティーク、ディスカッションに重点を置き、自己の課題の明確化を図る。 自己の課題の明確化、 フィールドワークの課題の明確化をふまえ、課題解決のための計画立案・実施、結果のまとめ、報告書の作成の過程を経験する。特論で学修した小児看護学領域における様々な課題、または関心のあるテーマを掘り下げて研究的に明らかにしながら絞り込み、一つのテーマを取り上げる。フィールドワークでは明確化した課題に取り組み、研究能力、看護実践能力を培う。課題解決に向けて研究的に取り組み、テーマをさらに深めることで特別研究Ⅰ、Ⅱに繋げる。フィールドワークで得た結果の一部を取り上げ、模擬授業を計画・立案し、実施し評価を受けることで教育能力の向上を図る。
目　標	1．自己のフィールドワークの課題を明確化し、そのプロセスにおいて研究能力を培う。 2．フィールドワークの目的、方法を設定し施設との交渉を行い、フィールドワークを実施し、看護実践能力を培う。 3．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	小児看護学演習の学習の進め方に関するガイダンス ・文献レビュー及び文献分析の方法（看護研究能力の育成） ・フィールドワークと模擬授業の実施（教育・研究・実践能力を養う） ・フィールドワーク課題の具体的な絞り込みについて ・フィールドワークの実施について ・フィールドワークの報告書の作成について ・模擬授業について(教育能力の育成)	金城やす子
	第2回	小児看護学で取り組む課題を明確にする 事例研究及び文献分析の方法を学ぶための課題を明確にする	金城やす子
	第3回	文献クリティーク①　クリティークとは、クリティークの方法について学ぶ 資料を読み解く	金城やす子
	第4回	文献クリティーク②　資料をもとにディスカッション 資料整理およびまとめ（要約の作成）	金城やす子
	第5回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、教育・研究・実践の課題としているテーマの周辺の研究成果を整理し自らの課題としているテーマについて焦点化する。	金城やす子
	第6回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、アプローチの方法論を検討する。 量的・質的研究の文献レビュー、テーマに関するその他の文献を調べる。	金城やす子
	第7回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 立案されたフィールドワーク計画書の発表	金城やす子
	第8回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 立案されたフィールドワーク計画書の発表後の修正	金城やす子
	第9回	フィールドワーク実施に向けた調整 施設への公文書を発送する。施設責任者と連絡をとる。 具体的な交渉を直接施設と行った後に計画の立案をする。	金城やす子
	第10回	フィールドワーク実施に向けた調整 施設への公文書を発送する。施設責任者と連絡をとる。 具体的な交渉を直接施設と行った後に計画の立案をする。	金城やす子

	回数	授業計画・内容	担当教員
	第11回	フィールドワーク事前準備　フィールドワークを実施するための最終準備状況の確認	金城やす子
	第12回	フィールドワークを行う（１回）フィールドまたは調査のための調整を行う	金城やす子
	第13回	フィールドワークを行う（２回）フィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	金城やす子
	第14回	フィールドワークを行う（３回）フィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	金城やす子
	第15回	フィールドワークを行う（４回）収集したデータ、調査結果を整理する	金城やす子
	第16回	フィールドワークを行う（５回）収集したデータ、調査結果を整理する	金城やす子
	第17回	フィールドワークを行う（６回）データ収集とフィールドへのフィードバックをする	金城やす子
	第18回	フィールドワークの事後整理、報告書作成	金城やす子
	第19回	フィールドワーク後の発表準備	金城やす子
	第20回	フィールドワークの成果発表。学生・教員間でのディスカッション	金城やす子
	第19回	フィールドワークの成果発表。学生・教員間でのディスカッション	金城やす子
	第20回	発表後に研究・看護実践の課題や支援の方略について考察し報告書を完成させる。	金城やす子
	第21回	フィールドワークのテーマに関連した講義テーマを絞り、模擬授業計画案を作成する	金城やす子
	第22回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、模擬授業計画案を作成する	金城やす子
	第23回	模擬授業の資料の準備、PPの準備を行う	金城やす子
	第24回	模擬授業計画案に沿って模擬授業のプレ実施を行う。	金城やす子
	第25回	模擬授業計画案に沿って模擬授業を行い、実施後の修正を行う	金城やす子
	第26回	模擬授業計画案に沿って模擬授業の実施	金城やす子
	第27回	模擬授業の改善点や模擬授業に対する学びと課題を整理する	金城やす子
	第28回	模擬授業の改善点や模擬授業に対する学びと課題を整理する	金城やす子
	第29回	研究課題に関するディスカッション	金城やす子
	第30回	学修の振り返りを通して、研究能力・教育能力・実践能力獲得状況について考察する	金城やす子
	〈フィールドワーク例〉 a . 小児病棟の看護の実際と課題 b . 小児在宅医療の実際と課題 c . 保育園看護師の実際と課題（サポートシステム構築に向けての課題） d . 幼児の生活リズム形成に関する課題と調査 e .　保育における保護者支援の課題 f .　医療保育（病棟保育）における課題と子どもの権利擁護		
評価方法	フィールドワーク発表、 報告書(60%),　模擬授業(20%)、文献クリティーク等への参画度（20%）		
テキスト, 参 考 書.	テキスト　：　.随時文献・図書を紹介する		
	参 考 書　：　適宜提示する		
履修上の注意点	ゼミ形式で進められることから、積極的な姿勢で臨むこと。		

別添資料（7）　【新】

科目名	成人・老年看護学演習	科目番号	22	単　位	4	時　間	60
教員名	安藤　純子・穴井　美恵	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	成人・老年期の健康状態や生活行動能力の向上、悪化防止・維持とQOLの向上を目指して、健康生活行動のレベル、発生しやすい健康問題と生活問題を中心として看護実践の向上とそのための理論や介入のエビデンスを用いて研究への応用能力の修得を目指す。 そのため特論で学修した成人・老年看護学領域における様々な課題を、詳しく研究的に明らかにする中で最も関心の高い課題を探究する。自らの問題意識から演習課題を明確にし、その課題に取り組む。また、模擬授業の計画・実施を通じて教育能力を育成する。（科目責任者：安藤純子）
目　標	1．フィールドワークの課題を明確化し、そのプロセスにおいて研究能力を高める。
	2．フィールドワークの目的、方法のを設定し施設との交渉を行い、フィールドワークを実施し、実践能力を高める。
	3．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業等計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を高める。
	〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉
	DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。
	DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。
	DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	演習の課題と具体的な進め方についてのガイダンス を行い、フィールドワークと模擬授業の実施により研究・教育・実践能力を養うことを目的とする。 ・フィールドワークの例の紹介と具体的な絞り込みについて説明する。 ・フィールドワークの実施について説明する。 ・フィールドワークの報告書の作成について説明する。 ・模擬授業について、説明する。	安藤　純子
	第2回	文献検討を行いながら、研究・教育・実践の課題としているテーマの周辺の研究成果を整理できる。	安藤　純子
	第3回	学生の自らの課題としているテーマについて焦点化できる。	安藤　純子
	第4回	自らの課題としているテーマについて、アプローチの方法論を検討する。量的・質的研究の文献レビュー、テーマに関するその他の文献検索、自己のフィールドワーク課題の明確化ができる。	安藤　純子
	第5回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する。	安藤　純子
	第6回	立案されたフィールドワーク計画書について説明する。	安藤　純子
	第7回	教員は、事前準備を施設資任者と行う。 学生は、施投等への公文害依頼文の作成と発送する。	安藤　純子
	第8回	指導のもと字生は具体的なフィールドワーク計画案を直接施設と行う。	安藤　純子
	第9回	フィールドワーク事前準備を行う（フィールドノートの作成）	安藤　純子
	第10回	フィールドワーク1日目：計画書にそって情報収集を行う。まずは観察を行う。	安藤　純子
	第11回	フィールドワーク2日目：インフォーマント（情報提供者）の選択を行う。	安藤　純子
	第12回	フィールドワーク3日目：インタビュー調査内容は、インタビュー終了後フィールドノートに記載する。記録を残すことの承諾を得る。倫理的配慮を行う。インフォーマントからの調査内容を整理する。	穴井　美恵
	第13回	フィールドワーク4日目：前日の調査内容から、視点を定め本日の調査を行う。人びとの行動を直接的に観察してフィールドノートをつける	穴井　美恵

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画・内　容	第14回	フィールドワーク5日目：フィールドに出向くことでわかる人びとの声を聴きフィールドノートにつける。学生自身が考える視点で、フィールドノートに記載する。	穴井　美恵
	第15回	フィールドワーク6日目：フィールドに出向くことで理解される資料の収集を行う。	安藤　純子
	第16回	フィールドワーク計画書・実施内容の整理を行う。	安藤　純子
	第17回	フィールドワーク後の報告書の完成を目指す。	安藤　純子
	第18回	フィールドワーク後の学修内容の整理を行う。	安藤　純子
	第19回	フィールドワークの発表と他者との意見交換を行う（学生、教員）。	安藤　純子
	第20回	発表後に報告書に対する指導を受け完成する。	安藤　純子
	第21回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、授業の成立要件を熟考し、授業方法を検討する。	安藤　純子
	第22回	看護学教育の単元にそって教材観、学生観、指導観を明確化する。	安藤　純子
	第23回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定	安藤　純子
	第24回	計画案の資料・媒体の準備を行う	安藤　純子
	第25回	計画案を作成する	安藤　純子
	第26回	計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う	安藤　純子
	第27回	計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする	安藤　純子
	第28回	実施した内容の改善点や学びと課題を整理する	安藤　純子
	第29回	修正された計画案を完成させる	安藤　純子
	第30回	研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察し、レポートを完成する。	安藤　純子
評価方法	フィールドノート　30%　　情報収集と分析　30%　　レポート　40%		
テキスト参考書	各教員より適宜紹介		
履修上の注意点	授業をゼミ形式で行うため、主体的に臨むこと。		

科目名	成人・老年看護学演習	科目番号	21	単　位	4	時　間	60
教員名	安藤　純子・穴井　美恵	科目種別	専門科目	開講年次		1 年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	成人・老年期の健康状態や生活行動能力の向上、悪化防止・維持とQOLの向上を目指して、健康生活行動のレベル、発生しやすい健康問題と生活問題を中心として看護実践の向上とそのための理論や介入のエビデンスを用いて研究への応用能力の修得を目指す。 そのため特論で学修した成人・老年看護学領域における様々な課題を、詳しく研究的に明らかにする中で最も関心の高い課題を探究する。自らの問題意識から演習課題を明確にし、その課題に取り組む。また、模擬授業の計画・実施を通じて教育能力を育成する。（科目責任者：安藤純子）
目　標	1．フィールドワークの課題を明確化し、そのプロセスにおいて研究能力を高める。 2．フィールドワークの目的、方法のを設定し施設との交渉を行い、フィールドワークを実施し、実践能力を高める。 3．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を高める。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	演習の課題と具体的な進め方についてのガイダンス を行い、フィールドワークと模擬授業の実施により研究・教育・実践能力を養うことを目的とする。 ・フィールドワークの例の紹介と具体的な絞り込みについて説明する。 ・フィールドワークの実施について説明する。 ・フィールドワークの報告書の作成について説明する。 ・模擬授業について、説明する。	安藤　純子
第2回	文献検討を行いながら、研究・教育・実践の課題としているテーマの周辺の研究成果を整理できる。	安藤　純子
第3回	学生の自らの課題としているテーマについて焦点化できる。	安藤　純子
第4回	自らの課題としているテーマについて、アプローチの方法論を検討する。量的・質的研究の文献レビュー、テーマに関するその他の文献検索、自己のフィールドワーク課題の明確化ができる。	安藤　純子
第5回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する。	安藤　純子
第6回	立案されたフィールドワーク計画書について説明する。	安藤　純子
第7回	教員は、事前準備を施設資任者と行う。 学生は、施投等への公文害依頼文の作成と発送する。	安藤　純子
第8回	指導のもと字生は具体的なフィールドワーク計画案を直接施設と行う。	安藤　純子
第9回	フィールドワーク事前準備を行う（フィールドノートの作成）	安藤　純子
第10回	フィールドワーク1日目：計画書にそって情報収集を行う。まずは観察を行う。	安藤　純子
第11回	フィールドワーク2日目：インフォーマント（情報提供者）の選択を行う。	安藤　純子
第12回	フィールドワーク3日目：インタビュー調査内容は、インタビュー終了後フィールドノートに記載する。記録を残すことの承諾を得る。倫理的配慮を行う。インフォーマントからの調査内容を整理する。	穴井　美恵
第13回	フィールドワーク4日目：前日の調査内容から、視点を定め本日の調査を行う。人びとの行動を直接的に観察してフィールドノートをつける	穴井　美恵

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画 ・ 内　容	第14回	フィールドワーク5日目：フィールドに出向くことでわかる人びとの声を聴きフィールドノートにつける。学生自身が考える視点で、フィールドノートに記載する。	穴井　美恵
	第15回	フィールドワーク6日目：フィールドに出向くことで理解される資料の収集を行う。	安藤　純子
	第16回	フィールドワーク計画書・実施内容の整理を行う。	安藤　純子
	第17回	フィールドワーク後の報告書の完成を目指す。	安藤　純子
	第18回	フィールドワーク後の学修内容の整理を行う。	安藤　純子
	第19回	フィールドワークの発表と他者との意見交換を行う（学生、教員）。	安藤　純子
	第20回	発表後に報告書に対する指導を受け完成する。	安藤　純子
	第21回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、授業の成立要件を熟考し、授業方法を検討する。	安藤　純子
	第22回	看護学教育の単元にそって教材観、学生観、指導観を明確化する。	安藤　純子
	第23回	取り上げた単元から、単元目標・指導目標を決定する。	安藤　純子
	第24回	看護学教育の模擬授業指導案を作成する。	安藤　純子
	第25回	学生自身が行う模擬授業の資料・ＰＰの準備を行う。	安藤　純子
	第26回	模擬授業指導案に沿ってシミュレーションを行い評価する。	安藤　純子
	第27回	模擬授業を実施し、他者（学生、教員）との意見交換を行う。	安藤　純子
	第28回	模擬授業の改善点や模擬授業に対する学びと課題を整理する。	安藤　純子
	第29回	模擬授業指導案を加筆修正し完成させる。	安藤　純子
	第30回	研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察し、レポートを完成する。	安藤　純子
評価方法	フィールドノート　30%　　情報収集と分析　30%　　レポート　40%		
テキスト 参 考 書.	各教員より適宜紹介		
履修上の 注意点	授業をゼミ形式で行うため、主体的に臨むこと。		

科目名	精神看護学演習	科目番号	24	単　位	4	時　間	60
教員名	岩瀬　信夫 ・ 永井　邦芳	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目では、メンタルヘルス上の困難を有する対象（患者・家族・集団・職域）に対して、効果的な看護援助方法を提供するためのコンサルテーション能力を養い、援助方法を評価するための看護研究方法について検討する。 フィールドワークの課題の明確化をふまえて課題を解決するための計画の立案と実施、結果をまとめ、報告書を作成する過程を経験する。具体的には、特論で学修した精神看護学領域における様々な課題、または関心のあるテーマを掘り下げて研究的に明らかにしながら絞り込み、一つのテーマを取り上げる。フィールドワークの課題を明確にし、その課題に取り組み、研究能力、看護実践能力を培う。テーマを取り上げた理由を明確にしながら、さらに研究的に取り組みながら必要時ゼミ形式で討議し、テーマについて深めながら特別研究Ⅰ、Ⅱに繋げていく。さらに、その一部を取り上げ模擬授業計画を立案し、実施し評価を受けることで教育能力を養う。（科目責任者：岩瀬信夫）
目　標	1．自己のフィールドワークの課題を明確化し、そのプロセスにおいて研究能力を培う。 2．フィールドワークの目的、方法のを設定し施設との交渉を行い、フィールドワークを実施し、看護実践能力を培う。 3．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業等計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	演習の課題と具体的な進め方についてのガイダンス ・フィールドワークと模擬授業の実施により教育・研究・実践能力を養う ・フィールドワークの例の紹介と具体的な絞り込みについて ・フィールドワークの実施について ・フィールドワークの報告書の作成について ・模擬授業について	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第2回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、教育・研究・実践の課題としているテーマの周辺の研究成果を整理し自らの課題としているテーマについて焦点化する。	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第3回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、アプローチの方法論を検討する。	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第4回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、量的・質的研究の文献レビュー、テーマに関するその他の文献を調べる。特論でまとめた内容を深めていくことも可能	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第5回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 立案されたフィールドワーク計画書の発表	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第6回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 立案されたフィールドワーク計画書の発表後の修正	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第7回	施設・自助グループ等の団体代表への公文書を発送する。フィールド責任者と連絡をとる。	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第8回	具体的な交渉を直接施設と行った後に計画の立案をする。	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第9回	フィールドワーク事前準備　フィールドワークを実施するための最終準備状況の確認	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第10回	フィールドワークを行う（1回）フィールドまたは調査のための調整を行う	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第11回	フィールドワークを行う（2回）フィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	岩瀬 信夫･永井 邦芳

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画・内　容	第12回	フィールドワークを行う（３回）異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第13回	フィールドワークを行う（４回）さらに異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第14回	フィールドワークを行う（５回）収集したデータ、調査結果を整理する	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第15回	フィールドワークを行う（６回）データ収集とフィールドへのフィードバックをする	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第16回	フィールドワークの事後整理	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第17回	フィールドワーク後の報告書作成	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第18回	フィールドワーク後の発表準備	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第19回	フィールドワークの成果発表。学生、教員が参加し意見交換をする	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第20回	発表後に報告書に対する指導を受け修正する	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第21回	発表後に研究・看護実践の課題や支援の方略について考察し報告書を完成させる。	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第22回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第23回	決定された課題に対する資料を集める	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第24回	計画案の媒体等の準備を行う	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第25回	計画案を作成する	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第26回	計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第27回	計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第28回	実施した内容の改善点や学びと課題を整理する	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第29回	修正された計画案を完成させる	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第30回	本講における取り組みを振り返り、研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察する	岩瀬 信夫･永井 邦芳
評価方法	①授業への参加・貢献度　50%、　②課題レポート　50%		
テキスト，参 考 書.	１．Stuart, G.W., & Laria, M. T.(2005/2007). 安保寛明, 宮本有紀(監訳),「看護学名著シリーズ精神科看護－原理と実践」(原著第８版)、エルゼビア・ジャパン. ２．西尾雅明(2004). ACT入門ー障害者のための包括型地域生活支援プログラム. 金剛出版. ３．小島操子(2013). 看護における危機理論・危機介入―フィンク/コーン/アグィレラ/ムース/家族の聞きモデルから学ぶ(第3版). 金芳堂. ４．野口裕二(2002). 物語としてのケア ナラティヴ・アプローチの世界へ. 医学書院. その他クラスディスカッション資料は開始時に提示する		
履修上の注意点	新型コロナの汚染度の状況によってはリモート授業を行います。受講生の通信環境としてはzoomなどのリアルタイム授業が行える環境を整えてください。大学院の授業はディスカッションを中心に行いますので、オンデマンド型授業は行いません。		

【旧】

科目名	精神看護学演習	科目番号	23	単　位	4	時　間	60
教員名	岩瀬　信夫 ・ 永井　邦芳	科目種別	専門科目	開講年次		1 年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目では、メンタルヘルス上の困難を有する対象（患者・家族・集団・職域）に対して、効果的な看護援助方法を提供するためのコンサルテーション能力を養い、援助方法を評価するための看護研究方法について検討する。 フィールドワークの課題の明確化をふまえて課題を解決するための計画の立案と実施、結果をまとめ、報告書を作成する過程を経験する。具体的には、特論で学修した精神看護学領域における様々な課題、または関心のあるテーマを掘り下げて研究的に明らかにしながら絞り込み、一つのテーマを取り上げる。フィールドワークの課題を明確にし、その課題に取り組み、研究能力、看護実践能力を培う。テーマを取り上げた理由を明確にしながら、さらに研究的に取り組みながら必要時ゼミ形式で討議し、テーマについて深めながら特別研究Ⅰ、Ⅱに繋げていく。さらに、その一部を取り上げ模擬授業計画を立案し、実施し評価を受けることで教育能力を養う。（科目責任者：岩瀬信夫）
目　標	1．自己のフィールドワークの課題を明確化し、そのプロセスにおいて研究能力を培う。 2．フィールドワークの目的、方法のを設定し施設との交渉を行い、フィールドワークを実施し、看護実践能力を培う。 3．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	演習の課題と具体的な進め方についてのガイダンス ・フィールドワークと模擬授業の実施により教育・研究・実践能力を養う ・フィールドワークの例の紹介と具体的な絞り込みについて ・フィールドワークの実施について ・フィールドワークの報告書の作成について ・模擬授業について	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第2回	自己のフィールドワーク課題の明確化 　文献検討を行いながら、教育・研究・実践の課題としているテーマの周辺の研究成果を整理し自らの課題としているテーマについて焦点化する。	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第3回	自己のフィールドワーク課題の明確化 　文献検討を行いながら、アプローチの方法論を検討する。	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第4回	自己のフィールドワーク課題の明確化 　文献検討を行いながら、量的・質的研究の文献レビュー、テーマに関するその他の文献を調べる。特論でまとめた内容を深めていくことも可能	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第5回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 　立案されたフィールドワーク計画書の発表	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第6回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 　立案されたフィールドワーク計画書の発表後の修正	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第7回	施設・自助グループ等の団体代表への公文書を発送する。フィールド責任者と連絡をとる。	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第8回	具体的な交渉を直接施設と行った後に計画の立案をする。	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第9回	フィールドワーク事前準備　フィールドワークを実施するための最終準備状況の確認	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第10回	フィールドワークを行う（１回）フィールドまたは調査のための調整を行う	岩瀬 信夫･永井 邦芳
第11回	フィールドワークを行う（２回）フィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	岩瀬 信夫･永井 邦芳

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画 ・ 内　容	第12回	フィールドワークを行う（３回）異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第13回	フィールドワークを行う（４回）さらに異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第14回	フィールドワークを行う（５回）収集したデータ、調査結果を整理する	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第15回	フィールドワークを行う（６回）データ収集とフィールドへのフィードバックをする	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第16回	フィールドワークの事後整理	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第17回	フィールドワーク後の報告書作成	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第18回	フィールドワーク後の発表準備	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第19回	フィールドワークの成果発表。学生、母性・助産等の教員が参加し意見交換をする	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第20回	発表後に報告書に対する指導を受け修正する	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第21回	発表後に研究・看護実践の課題や支援の方略について考察し報告書を完成させる。	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第22回	フィールドワークのテーマに関連した講義テーマを絞り、模擬授業計画案を作成する	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第23回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、模擬授業計画案を作成する	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第24回	模擬授業の資料の準備を行う	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第25回	模擬授業のＰＰの準備を行う	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第26回	模擬授業計画案に沿って模擬授業のプレ実施を行う。実施後修正を行う	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第27回	模擬授業計画案に沿って模擬授業を実施する。学生、母性・助産等の教員が参加し意見交換をする	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第28回	模擬授業の改善点や模擬授業に対する学びと課題を整理する	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第29回	修正された模擬授業案を完成させる	岩瀬 信夫･永井 邦芳
	第30回	本講における取り組みを振り返り、研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察する	岩瀬 信夫･永井 邦芳
評価方法	①授業への参加・貢献度　50%、　②課題レポート　50%		
テキスト 参 考 書	１．Stuart, G.W., & Laria, M. T.(2005/2007). 安保寛明, 宮本有紀(監訳),「看護学名著シリーズ精神科看護－原理と実践」(原著第８版)、エルゼビア・ジャパン. ２．西尾雅明(2004). ACT入門ー障害者のための包括型地域生活支援プログラム. 金剛出版. ３．小島操子(2013). 看護における危機理論・危機介入―フィンク/コーン/アグィレラ/ムース/家族の聞きモデルから学ぶ(第3版). 金芳堂. ４．野口裕二(2002). 物語としてのケア ナラティヴ・アプローチの世界へ. 医学書院. その他クラスディスカッション資料は開始時に提示する		
履修上の 注意点	新型コロナの汚染度の状況によってはリモート授業を行います。受講生の通信環境としてはzoomなどのリアルタイム授業が行える環境を整えてください。大学院の授業はディスカッションを中心に行いますので、オンデマンド型授業は行いません。		

科目名	地域・在宅看護学演習	科目番号	26	単　位	4	時　間	60
教員名	佐久間 清美　・ 西出(黒部)りつ子・ 藤丸　郁代	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目では、地域看護活動を展開するために、効果的な看護援助方法を提供するためのコンサルテーション能力を養い、援助方法を評価するための看護研究方法について検討する。 フィールドワークの課題の明確化をふまえて課題を解決するための計画の立案と実施、結果をまとめ、報告書を作成する過程を経験する。具体的には、特論で学修した地域・在宅看護学領域における様々な課題、または関心のあるテーマを掘り下げて研究的に明らかにしながら絞り込み、一つのテーマを取り上げてその理由を明示する。 本科目において実施可能なフィールドワークの課題と目的を明確にし、フィールドワークの一連の過程を通して研究能力と看護実践能力の向上を図る。これらの学修過程において、必要時にゼミ形式で討議し、研究課題について深めながら特別研究ⅠⅡに繋げていく。さらに、その一部を取り上げて模擬授業計画を立案、授業の実施とその評価を受けることで、教育能力を培う。（科目責任者：佐久間清美）
目　標	1．自己のフィールドワークの課題を明確化し、そのプロセスにおいて研究能力を培う。 2．フィールドワークの目的と適する方法を立案、関連施設との交渉を行い、フィールドワークを実施して看護実践能力を培う。 3．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業等計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	演習の課題と具体的な進め方についてのガイダンス ・フィールドワークと模擬授業の目的（実施により研究・実践・教育能力を養う） ・フィールドワークの例の紹介と具体的な絞り込みについて ・フィールドワークの実施について ・フィールドワークの報告書の作成について ・模擬授業について	佐久間 清 美 西出(黒部) りつ子 藤 丸　郁 代
	第2回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、研究・実践・教育の課題とするテーマ周辺の研究成果を整理し、自らの課題とするテーマについて焦点化する。	
	第3回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、アプローチの課題を明確化、方法論を検討する。	
	第4回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、量的・質的研究の文献レビュー、課題に関するその他の文献を調べる。特論でまとめた内容を深めていく。	
	第5回	立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性の検討 立案したフィールドワーク計画書の発表・検討	
	第6回	立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性の検討 フィールドワーク計画書修正版の発表・検討	
	第7回	施設への公文書を発送する。施設責任者と連絡をとる。	
	第8回	具体的な交渉を直接施設と行った後に計画の修正を行う。	
	第9回	フィールドワーク事前準備：フィールドワークを実施するための最終準備状況を確認する。	
	第10回	フィールドワーク（1）：フィールドまたは調査のための調整を行う。	
	第11回	フィールドワーク（2）：フィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する。	
	第12回	フィールドワーク（3）：異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する。	
	第13回	フィールドワーク（4）：さらに異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する。	

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画・内　容	第14回	フィールドワーク（５）：収集したデータ、分析結果を整理する。	佐久間 清 美 西出(黒部) りつ子 藤 丸　郁 代
	第15回	フィールドワークの事後整理	
	第16回	フィールドワーク後の報告書作成	
	第17回	フィールドワーク後の発表準備	
	第18回	フィールドワーク成果発表（学生、地域・在宅看護学教員、施設職員の参加による意見交換）	
	第19回	発表後に報告書に対する指導を受け、修正する。	
	第20回	研究・看護実践の課題や支援の方略について考察し、発表報告書を完成させる。	
	第21回	フィールドワーク（６）：フィールドへ分析結果をフィードバックする。	
	第22回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定	
	第23回	決定された課題に対する資料を集める	
	第24回	計画案の媒体等の準備を行う	
	第25回	計画案を作成する	
	第26回	計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う	
	第27回	計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする	
	第28回	実施した内容の改善点や学びと課題を整理する	
	第29回	修正された計画案を完成させる	
	第30回	本講における取り組みを振り返り、研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察する	
	〈フィールドワーク例〉 a . 母子健康手帳交付時における妊婦の不安・心配の現状とそれらを緩和するsocial support b . 赤ちゃん訪問を受けた母親の育児に対する悩み・不安の内容および嬉しいことと楽しみなこと c . 1歳6か月児健康診査受診児を育てる母親自身の直近1年間の健診受診の有無とその理由 d . 地域在住高齢者の1日の身体活動の内容と身体活動量増加につながる要因 e . 健康づくり活動の地域住民リーダーが考えるグループの課題と解決に向けた方策 f . 難病とともに生きる人たちのニーズと家族のニーズの共通点と相違点		
評価方法	フィールドワーク発表内容・報告書(70%)，　模擬授業(30%)		
テキスト，参 考 書．	テキスト　：　随時文献・図書を紹介する		
	参 考 書　：　適宜提示する		
履修上の注意点	ゼミ形式で進められることから、積極的な姿勢で臨むこと。		

科目名	地域・在宅看護学演習	科目番号	25	単　位	4	時　間	60
教員名	佐久間 清美　・ 西出(黒部)りつ子・ 藤丸 郁代	科目種別	専門科目	開講年次		1 年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要

本科目では、地域看護活動を展開するために、効果的な看護援助方法を提供するためのコンサルテーション能力を養い、援助方法を評価するための看護研究方法について検討する。 フィールドワークの課題の明確化をふまえて課題を解決するための計画の立案と実施、結果をまとめ、報告書を作成する過程を経験する。具体的には、特論で学修した地域・在宅看護学領域における様々な課題、または関心のあるテーマを掘り下げて研究的に明らかにしながら絞り込み、一つのテーマを取り上げてその理由を明示する。

本科目において実施可能なフィールドワークの課題と目的を明確にし、フィールドワークの一連の過程を通して研究能力と看護実践能力の向上を図る。これらの学修過程において、必要時にゼミ形式で討議し、研究課題について深めながら特別研究ⅠⅡに繋げていく。さらに、その一部を取り上げて模擬授業計画を立案、授業の実施とその評価を受けることで、教育能力を培う。（科目責任者：佐久間清美）

目　標

1．自己のフィールドワークの課題を明確化し、そのプロセスにおいて研究能力を培う。

2．フィールドワークの目的と適する方法を立案、関連施設との交渉を行い、フィールドワークを実施して看護実践能力を培う。

3．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。

〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉

DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。

DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。

DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	演習の課題と具体的な進め方についてのガイダンス ・フィールドワークと模擬授業の目的（実施により研究・実践・教育能力を養う） ・フィールドワークの例の紹介と具体的な絞り込みについて ・フィールドワークの実施について ・フィールドワークの報告書の作成について ・模擬授業について	佐久間 清 美 西出(黒部) りつ子 藤 丸　郁 代
第2回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、研究・実践・教育の課題とするテーマ周辺の研究成果を整理し、自らの課題とするテーマについて焦点化する。	
第3回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、アプローチの課題を明確化、方法論を検討する。	
第4回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、量的・質的研究の文献レビュー、課題に関するその他の文献を調べる。特論でまとめた内容を深めていく。	
第5回	立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性の検討 立案したフィールドワーク計画書の発表・検討	
第6回	立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性の検討 フィールドワーク計画書修正版の発表・検討	
第7回	施設への公文書を発送する。施設責任者と連絡をとる。	
第8回	具体的な交渉を直接施設と行った後に計画の修正を行う。	
第9回	フィールドワーク事前準備：フィールドワークを実施するための最終準備状況を確認する。	
第10回	フィールドワーク（1）：フィールドまたは調査のための調整を行う。	
第11回	フィールドワーク（2）：フィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する。	
第12回	フィールドワーク（3）：異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する。	
第13回	フィールドワーク（4）：さらに異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する。	

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画・内　容	第14回	フィールドワーク（５）：収集したデータ、分析結果を整理する。	佐久間 清 美 西出(黒部) りつ子 藤 丸　郁 代
	第15回	フィールドワークの事後整理	
	第16回	フィールドワーク後の報告書作成	
	第17回	フィールドワーク後の発表準備	
	第18回	フィールドワーク成果発表（学生、地域・在宅看護学教員、施設職員の参加による意見交換）	
	第19回	発表後に報告書に対する指導を受け、修正する。	
	第20回	研究・看護実践の課題や支援の方略について考察し、発表報告書を完成させる。	
	第21回	フィールドワーク（６）：フィールドへ分析結果をフィードバックする。	
	第22回	フィールドワークのテーマに関連した講義テーマを絞り、模擬授業案を検討する。	
	第23回	フィールドワークの結果を活用した模擬授業計画案を作成する。	
	第24回	模擬授業の資料の準備を行う。	
	第25回	模擬授業のPower Pointの準備を行う。	
	第26回	模擬授業計画案に沿って模擬授業のプレ実施を行い、コメント・反応をもとに修正を行う。	
	第27回	学生選定事例の地域保健活動プログラムの発表	
	第28回	児童・生徒との健康なパートナーシップの促進	
	第29回	職場で働いている人々との健康なパートナーシップの促進	
	第30回	地域の高齢者との健康なパートナーシップの促進	
	〈フィールドワーク例〉 a . 母子健康手帳交付時における妊婦の不安・心配の現状とそれらを緩和するsocial support b . 赤ちゃん訪問を受けた母親の育児に対する悩み・不安の内容および嬉しいことと楽しみなこと c . 1歳6か月児健康診査受診児を育てる母親自身の直近1年間の健診受診の有無とその理由 d . 地域在住高齢者の1日の身体活動の内容と身体活動量増加につながる要因 e . 健康づくり活動の地域住民リーダーが考えるグループの課題と解決に向けた方策 f . 難病とともに生きる人たちのニーズと家族のニーズの共通点と相違点		
評価方法	フィールドワーク発表内容・報告書(70%)，　模擬授業(30%)		
テキスト，参 考 書.	テキスト　：　随時文献・図書を紹介する 参 考 書　：　適宜提示する		
履修上の注意点	ゼミ形式で進められることから、積極的な姿勢で臨むこと。		

別添資料（10）　【新】

科目名	災害看護学演習	科目番号	28	単　位	4	時　間	60
教員名	臼井　千津	科目種別	専門科目	開講年次	1 年		
		必修・選択他	選択必修	開講学期	後期		

科目概要	本科目では災害看護学特論を基に、質の高い災害看護を実践・提供するための能力を養う。また現在、展開されている災害看護を検証・評価するための研究方法について検討する。具体的には災害看護領域に関する課題と考えられていることや関心のあるテーマを検討し、検討プロセスでは災害看護実践およびコンサルテーション・教育などに関するさまざまな先行研究をクリティークし探求する。研究方法の検討に際してはフィールドワークを経験する。フィールドワークでは研究課題を明確にし、災害看護実践力を培う。 課題の検討を経て研究テーマを絞り込み、研究を計画し、ゼミにおいて討論を重ね深めつつ研究としてまとめる。研究過程において災害看護教育に関する模擬授業を計画・立案し、実施を経て評価を受けることで教育・指導能力を養う。研究の一環として災害看護関連の学会・研究会などに参加し、新たな知見を獲得し研究に繋げる。
目　標	1．関心のあるテーマや課題とされている災害看護実践例や先行研究のクリティークを行い研究過程における能力を培う。
	2．フィールドワークの目的や方法を明らかにし、フィールド側と調整を行い実施・評価を得て看護実践力を養う。
	3．災害看護教育に関連したテーマで模擬授業等計画を立案・実施・評価の過程で教育指導能力を養う。
	4．研究を推進し論述・発表する能力を養う。
	〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉
	DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。
	DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。
	DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	ガイダンス・ゼミ形式の進め方 ・フィールドワーク事例の紹介と具体的な進め方・計画・フィールドとの調整・依頼・報告	臼井　千津
	第2回	・模擬授業の進め方・計画	臼井　千津
	第3回	災害看護の実際を概観し自己の課題の明確化に繋がる文献クリティークを計画する。 文献はテーマ・災害看護の時期・場および質的・量的・その他の研究手法による文献を調べ検討する	臼井　千津
	第4回	①文献クリティーク：災害看護の「備え」「地域防災」「行政」に関する現状と課題①	臼井　千津
	第5回	②文献クリティーク：発災初期・急性期の看護と課題	臼井　千津
	第6回	③文献クリティーク：中期の看護と課題	臼井　千津
	第7回	④文献クリティーク：長期の看護と課題	臼井　千津
	第8回	⑤文献クリティーク：関心のあるテーマおよび課題としたいテーマの検討	臼井　千津
	第9回	文献クリティーク：全般を通して自己の課題を明確にし、焦点化する	臼井　千津
	第10回	①フィールドワーク：課題を明確化するための文献検討を行い、併せて方法論を検討する フィールドワークの時期・期間・場などは院生及びフイールド側と調整する。災害発生状況で変更あり	臼井　千津
	第11回	②フィールドワーク：院生立案のフィールドワーク計画の検討・目的・方法の妥当性など	臼井　千津
	第12回	③フィールドワーク：計画書の発表・評価・修正し実施へと繋ぐ	臼井　千津
	第13回	④フィールドワーク：実施に際しての交渉・手続きを行う・フィールド責任者との調整・公文書の発送	臼井　千津
	第14回	⑤フィールドワーク：フィールドワークに際しての事前準備・調整を行う	臼井千津（指導担当）
	第15回	⑥フィールドワーク：実際；データ収集・アセスメント・実践計画	臼井千津（指導担当）
	第16回	⑦フィールドワーク：実際；実践計画・調整・実施・評価	

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画・内　容	第17回	⑧フィールドワーク：実際；実践計画・調整・実施・評価	臼井千津（指導担当）
	第18回	⑨フィールドワーク：フィールドワーク終了後のまとめ・事後の整理・御礼など	臼井千津（指導担当）
	第19回	⑩フィールドワーク：発表・評価・討論を行う	臼井千津（指導担当）
	第20回	フィールドワークのまとめ・フィールドへのフィールドバックを行う	臼井　千津
	第21回	発表後に研究・看護実践の課題や支援の方略について考察し報告書を完成させる	臼井　千津
	第22回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定	臼井　千津
	第23回	決定された課題に対する資料を集める	臼井　千津
	第24回	計画案の媒体等の準備を行う	臼井　千津
	第25回	計画案を作成する	臼井　千津
	第26回	計画案に沿ってプレ実施を行う	臼井　千津
	第27回	計画に沿いプレ実施・評価・修正を行う。学生、教員が参加し意見交換をする	臼井　千津
	第28回	実施した内容の改善点や学びと課題を整理する	臼井　千津
	第29回	修正された計画案を完成させる	臼井　千津
	第30回	本講における取り組みを振り返り、研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察する	臼井　千津
	（フィールドワーク事例） a. 災害発生時の場（救護所・病院・避難所・福祉避難所・災害対策本部・行政）などにおける災害看護の実際と課題 b. 災害発生後の被災地域・仮設住宅などにおける住民・地域の健康管理の実際と課題 c. 災害の備え・減災に関連する予防・教育の実際と課題：フィールドとして学校・地域・病院など		
評価方法	フィールドワーク発表・報告書：３０％　　模擬授業：２０％　　単位認定レポート：５０％		
テキスト参考書	テキスト　：　文献・図書を随時紹介します。		
	参 考 書　：　適宜指示します。		
履修上の注意点	1．フィールドワークの時期・期間・場は依頼先との調整や「災害発生」の状況により異なります。 2．ゼミ形式で展開されるので積極的な参加が必須要件です。		

科目名	災害看護学演習	科目番号	27	単　位	4	時　間	60
教員名	臼井　千津	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目では災害看護学特論を基に、質の高い災害看護を実践・提供するための能力を養う。また現在、展開されている災害看護を検証・評価するための研究方法について検討する。具体的には災害看護領域に関する課題と考えられていることや関心のあるテーマを検討し、検討プロセスでは災害看護実践およびコンサルテーション・教育などに関するさまざまな先行研究をクリティークし探求する。研究方法の検討に際してはフィールドワークを経験する。フィールドワークでは研究課題を明確にし、災害看護実践力を培う。 課題の検討を経て研究テーマを絞り込み、研究を計画し、ゼミにおいて討論を重ね深めつつ研究としてまとめる。研究過程において災害看護教育に関する模擬授業を計画・立案し、実施を経て評価を受けることで教育・指導能力を養う。研究の一環として災害看護関連の学会・研究会などに参加し、新たな知見を獲得し研究に繋げる。
目　標	1．関心のあるテーマや課題とされている災害看護実践例や先行研究のクリティークを行い研究過程における能力を培う。 2．フィールドワークの目的や方法を明らかにし、フィールド側と調整を行い実施・評価を得て看護実践力を養う。 3．災害看護教育に関連したテーマで模擬授業計画を立案・実施・評価の過程で教育指導能力を養う。 4．研究を推進し論述・発表する能力を養う。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	ガイダンス・ゼミ形式の進め方 ・フィールドワーク事例の紹介と具体的な進め方・計画・フィールドとの調整・依頼・報告	臼井　千津
第2回	・模擬授業の進め方・計画	臼井　千津
第3回	災害看護の実際を概観し自己の課題の明確化に繋がる文献クリティークを計画する。 文献はテーマ・災害看護の時期・場および質的・量的・その他の研究手法による文献を調べ検討する	臼井　千津
第4回	①文献クリティーク：災害看護の｢備え｣｢地域防災｣「行政」に関する現状と課題①	臼井　千津
第5回	②文献クリティーク：発災初期・急性期の看護と課題	臼井　千津
第6回	③文献クリティーク：中期の看護と課題	臼井　千津
第7回	④文献クリティーク：長期の看護と課題	臼井　千津
第8回	⑤文献クリティーク：関心のあるテーマおよび課題としたいテーマの検討	臼井　千津
第9回	文献クリティーク：全般を通して自己の課題を明確にし、焦点化する	臼井　千津
第10回	①フィールドワーク：課題を明確化するための文献検討を行い、併せて方法論を検討する フィールドワークの時期・期間・場などは院生及びフイールド側と調整する。災害発生状況で変更あり	臼井　千津
第11回	②フィールドワーク：院生立案のフィールドワーク計画の検討・目的・方法の妥当性など	臼井　千津
第12回	③フィールドワーク：計画書の発表・評価・修正し実施へと繋ぐ	臼井　千津
第13回	④フィールドワーク：実施に際しての交渉・手続きを行う・フィールド責任者との調整・公文書の発送	臼井　千津
第14回	⑤フィールドワーク：フィールドワークに際しての事前準備・調整を行う	臼井千津（指導担当）
第15回	⑥フィールドワーク：実際；データ収集・アセスメント・実践計画	臼井千津（指導担当）
第16回	⑦フィールドワーク：実際；実践計画・調整・実施・評価	

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画 ・ 内　容	第17回	⑧フィールドワーク：実際；実践計画・調整・実施・評価	臼井千津（指導担当）
	第18回	⑨フィールドワーク：フィールドワーク終了後のまとめ・事後の整理・御礼など	臼井千津（指導担当）
	第19回	⑩フィールドワーク：発表・評価・討論を行う	臼井千津（指導担当）
	第20回	フィールドワークのまとめ・報告書の作成・フィールドへのフィールドバックを行う。	臼井　千津
	第21回	自己の研究推進：研究計画；目的・倫理的課題・研究方法・データ収集・文献検討	臼井　千津
	第22回	自己の研究推進：研究計画；発表・検討・評価・修正	臼井　千津
	第23回	自己の研究推進：データ収集・分析・考察	臼井　千津
	第24回	自己の研究推進：データ収集・分析・考察	臼井　千津
	第25回	自己の研究推進：まとめ・発表・討論・評価・修正	臼井　千津
	第26回	模擬授業の準備・文献・資料の収集および計画立案する	臼井　千津
	第27回	模擬授業計画に沿いプレ模擬授業を実施・評価・修正を行う。プレにより模擬授業（公開）の準備・ＰＲ	臼井　千津
	第28回	模擬授業の実施する。授業参加者に評価を得・意見交換を行う	臼井　千津
	第29回	模擬授業の評価より修正し完成させる。模擬授業のまとめを行う	臼井　千津
	第30回	研究の完成および演習授業における自己の取り組みを振り返り考察する	臼井　千津
	（フィールドワーク事例） a. 災害発生時の場（救護所・病院・避難所・福祉避難所・災害対策本部・行政）などにおける災害看護の実際と課題 b. 災害発生後の被災地域・仮設住宅などにおける住民・地域の健康管理の実際と課題 c. 災害の備え・減災に関連する予防・教育の実際と課題：フィールドとして学校・地域・病院など		
評価方法	フィールドワーク発表・報告書：３０％　　模擬授業：２０％　　単位認定レポート：５０％		
テキスト 参考書	テキスト　：　文献・図書を随時紹介します。		
	参 考 書　：　適宜指示します。		
履修上の 注意点	１．フィールドワークの時期・期間・場は依頼先との調整や「災害発生」の状況により異なります。 ２．ゼミ形式で展開されるので積極的な参加が必須要件です。		

別添資料（11）　　【新】

科目名	看護管理学演習	科目番号	30	単　位	4	時　間	60
教員名	白鳥　さつき	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目では、看護管理学特論の学修内容をベースとして各自が実践してきた領域の臨床実践および教育上の課題を追求し、問題の所在を明らかにするための文献検討およびフィールドワーク、事例分析を行う。 研究計画書を作成し、研究課題 Research Questionを明確にするためには、既存の研究に精通することが重要である。 それぞれのテーマについて、フィールドワークによる成果と文献クリティークによって課題と方法論を検討する。 さらに、既習の理論を応用して、各自の抱える看護管理・看護教育上の課題を分析し、課題を追求するための基礎資料を作成する。
目　標	1．看護管理・看護教育における現代の課題を追求し、説明できる 2．フィールドワーク、事例検討を通して各自の課題を追求しテーマを明確にできる。 3. フィールドワーク、事例検討を通して得た成果の発表と授業案を作成し模擬授業等を実施することができる。 4．看護管理における課題について既習の理論を活用して、 適切な研究方法を選択し、計画書案を作成できる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	看護管理学研究の意義と方法の追求について文献検討、事例分析、フィールドワークについてガイダンスを行い、スケジュールを立てる。	白鳥　さつき
第2回	演習課題の明確化 自身の経験と文献検討から課題を追求し、焦点化する。フィールドワークの具体的な計画を検討する。	白鳥　さつき
第3回	演習課題の明確化 自身の経験と文献検討から課題を追求し、焦点化する。フィールドワークの具体的な計画を検討する。	白鳥　さつき
第4回	自己のフィールドワーク課題の明確化 フィールドワークの領域（内容）を決定し、目的、方法について計画書を作成する。	白鳥　さつき
第5回	自己のフィールドワーク課題の明確化 フィールドワークの領域（内容）を決定し、目的、方法について計画書を作成する。	白鳥　さつき
第6回	作成したフィールドワーク計画書の発表　ディスカッション、評価と修正	白鳥　さつき
第7回	作成したフィールドワーク計画書の発表　ディスカッション、評価と修正	白鳥　さつき
第8回	施設への公文書の発行。施設責任者と連絡を取り、具体的な説明をするためのアポイントを取る。	白鳥　さつき
第9回	施設責任者への具体的交渉に入る（直接、施設に伺って許可を得るための手続きを取る）	白鳥　さつき
第10回	施設責任者への具体的交渉に入る（直接、施設に伺って許可を得るための手続きを取る）	白鳥　さつき
第11回	フィールドワークを実践する（1回）。実践のための調整、調査のための準備を行う。	白鳥　さつき
第12回	フィールドワークを実践する（2回）。実践への参画または非参与観察、インタビューなどデータ収集	白鳥　さつき
第13回	フィールドワークを実践する（3回）。実践への参画または非参与観察、インタビューなどデータ収集	白鳥　さつき
第14回	フィールドワークを実践する（4回）。実践への参画または非参与観察、インタビューなどデータ収集	白鳥　さつき
第15回	フィールドワークを実践する（5回）。実践への参画または非参与観察、インタビューなどデータ収集	白鳥　さつき
第16回	フィールドワークを実践する（6回）。実践への参画または非参与観察、インタビューなどデータ収集	白鳥　さつき
第17回	フィールドワーク事後整理と報告書作成	白鳥　さつき

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画・内　容	第18回	中間報告会　各自のフィールドワークの成果と自身の研究テーマについて発表し、ディスカッションする。 フィールドワークへの課題達成について必要時計画修正を行う。	白鳥　さつき
	第19回	中間報告会　各自のフィールドワークの成果と自身の研究テーマについて発表し、ディスカッションする。 フィールドワークへの課題達成について必要時計画修正を行う。	白鳥　さつき
	第20回	フィールドワークにおける補足、実践およびデータ収集、聞き取り調査など	白鳥　さつき
	第21回	フィールドワークにおける補足、実践およびデータ収集、聞き取り調査など	白鳥　さつき
	第22回	フィールドワークの成果をまとめ、施設へのフィードバックのためのプレゼンテーションの準備	白鳥　さつき
	第23回	フィールドワークの成果をまとめ、施設へのフィードバックのためのプレゼンテーションの準備	白鳥　さつき
	第24回	各施設で成果発表を行い、評価を受ける	白鳥　さつき
	第25回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定	白鳥　さつき
	第26回	計画案の資料・媒体の準備を行う	白鳥　さつき
	第27回	計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う	白鳥　さつき
	第28回	計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする	白鳥　さつき
	第29回	実施した内容の改善点や学びと課題を整理する	白鳥　さつき
	第30回	本講における取り組みを振り返り、研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察する	白鳥　さつき
	フィールドワークの検討（以下を参考に自身のテーマにあった方法を文献検討を重ねて選択する） a. 看護管理者の業務への参画と一部の実践またはシャドーイング、非参与観察などからマネジメントの在り方を学び、課題を明確にする。 b. 看護管理者会議の非参与観察から組織における看護部の位置づけについてアセスメントし、課題を追求する。 c. 看護管理業務の非参与観察からドナベディアンの医療の質評価3側面の「構造」「結果」について評価し、アセスメントする。 d. リーダー業務への一部参画、実践、シャドーイング、非参与観察などから臨床における看護サービスの質管理についてアセスメントし、課題を追求する。 e. リーダー業務への一部参画、実践、シャドーイング、非参与観察などを通して臨床倫理についてアセスメントし、課題を追求する。 f. 多職種カンファレンスに参加し、多職種連携の在り方を検討し、課題について明確化する。 g. 院内研修に参画し（一部を担当するなど）、継続教育、卒後教育の在り方について検討する。 h. 医療安全室の業務の非参与観察により、コンフリクトマネジメント、リスクマネジメントと看護サービスの質管理についてアセスメントする。		
評価方法	自己の課題追求の程度(40%) 課題分析(20%) 課題レポートとプレゼンテーションの完成度(40%)		
テキスト，参考書.	1．ナンシー・バーンズ他／黒田裕子訳(2015). バーンズ&グローブ看護研究入門、第7版、エルゼビアジャパン. 2．岩淵千明(2000). あなたもできるデータの処理と解析、福村出版. 3．APA(アメリカ心理学会)／前田樹海他訳(2011). 論文作成マニュアル、医学書院. 4．日本看護科学学会誌、日本看護管理学会誌		
履修上の注意点	研究方法や論文作成マニュアルなど十分に読み込んでおくこと。		

【旧】

科目名	看護管理学演習	科目番号	29	単　位	4	時　間	60
教員名	白鳥　さつき	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目では、看護管理学特論の学修内容をベースとして各自が実践してきた領域の臨床実践および教育上の課題を追求し、問題の所在を明らかにするための文献検討およびフィールドワーク、事例分析を行う。 研究計画書を作成し、研究課題 Research Questionを明確にするためには、既存の研究に精通することが重要である。 それぞれのテーマについて、フィールドワークによる成果と文献クリティークによって課題と方法論を検討する。 さらに、既習の理論を応用して、各自の抱える看護管理・看護教育上の課題を分析し、課題を追求するための基礎資料を作成する。
目　標	1．看護管理・看護教育における現代の課題を追求し、説明できる 2．フィールドワーク、事例検討を通して各自の課題を追求しテーマを明確にできる。 3. フィールドワーク、事例検討を通して得た成果の発表と授業案を作成し模擬授業を実施することができる。 4．看護管理における課題について既習の理論を活用して、 適切な研究方法を選択し、計画書案を作成できる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	看護管理学研究の意義と方法の追求について文献検討、事例分析、フィールドワークについてガイダンスを行い、スケジュールを立てる。	白鳥　さつき
第2回	演習課題の明確化 自身の経験と文献検討から課題を追求し、焦点化する。フィールドワークの具体的な計画を検討する。	白鳥　さつき
第3回	演習課題の明確化 自身の経験と文献検討から課題を追求し、焦点化する。フィールドワークの具体的な計画を検討する。	白鳥　さつき
第4回	自己のフィールドワーク課題の明確化 フィールドワークの領域（内容）を決定し、目的、方法について計画書を作成する。	白鳥　さつき
第5回	自己のフィールドワーク課題の明確化 フィールドワークの領域（内容）を決定し、目的、方法について計画書を作成する。	白鳥　さつき
第6回	作成したフィールドワーク計画書の発表　ディスカッション、評価と修正	白鳥　さつき
第7回	作成したフィールドワーク計画書の発表　ディスカッション、評価と修正	白鳥　さつき
第8回	施設への公文書の発行。施設責任者と連絡を取り、具体的な説明をするためのアポイントを取る。	白鳥　さつき
第9回	施設責任者への具体的交渉に入る（直接、施設に伺って許可を得るための手続きを取る）	白鳥　さつき
第10回	施設責任者への具体的交渉に入る（直接、施設に伺って許可を得るための手続きを取る）	白鳥　さつき
第11回	フィールドワークを実践する（1回）。実践のための調整、調査のための準備を行う。	白鳥　さつき
第12回	フィールドワークを実践する（2回）。実践への参画または非参与観察、インタビューなどデータ収集	白鳥　さつき
第13回	フィールドワークを実践する（3回）。実践への参画または非参与観察、インタビューなどデータ収集	白鳥　さつき
第14回	フィールドワークを実践する（4回）。実践への参画または非参与観察、インタビューなどデータ収集	白鳥　さつき
第15回	フィールドワークを実践する（5回）。実践への参画または非参与観察、インタビューなどデータ収集	白鳥　さつき
第16回	フィールドワークを実践する（6回）。実践への参画または非参与観察、インタビューなどデータ収集	白鳥　さつき
第17回	フィールドワーク事後整理と報告書作成	白鳥　さつき

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画 ・ 内　容	第18回	中間報告会　各自のフィールドワークの成果と自身の研究テーマについて発表し、ディスカッションする。 フィールドワークへの課題達成について必要時計画修正を行う。	白鳥　さつき
	第19回	中間報告会　各自のフィールドワークの成果と自身の研究テーマについて発表し、ディスカッションする。 フィールドワークへの課題達成について必要時計画修正を行う。	白鳥　さつき
	第20回	フィールドワークにおける補足、実践およびデータ収集、聞き取り調査など	白鳥　さつき
	第21回	フィールドワークにおける補足、実践およびデータ収集、聞き取り調査など	白鳥　さつき
	第22回	フィールドワークの成果をまとめ、施設へのフィードバックのためのプレゼンテーションの準備	白鳥　さつき
	第23回	フィールドワークの成果をまとめ、施設へのフィードバックのためのプレゼンテーションの準備	白鳥　さつき
	第24回	各施設で成果発表を行い、評価を受ける	白鳥　さつき
	第25回	フィールドワーク結果のまとめと模擬授業の授業案を作成する。	白鳥　さつき
	第26回	作成した模擬授業案に沿って、模擬授業を行う（対象は中堅層以上の看護職者を想定し、フィールドを検討して選定する。）	白鳥　さつき
	第27回	作成した模擬授業案に沿って、模擬授業を行う（対象は中堅層以上の看護職者を想定し、フィールドを検討して選定する。）	白鳥　さつき
	第28回	各自の研究テーマの明確化、課題追及の方法論の選択と妥当性の検討	白鳥　さつき
	第29回	研究計画書の検討と倫理審査申請書作成の準備 ①	白鳥　さつき
	第30回	研究計画書の検討と倫理審査申請書作成の準備 ②	白鳥　さつき
	フィールドワークの検討（以下を参考に自身のテーマにあった方法を文献検討を重ねて選択する） a. 看護管理者の業務への参画と一部の実践またはシャドーイング、非参与観察などからマネジメントの在り方を学び、課題を明確にする。 b. 看護管理者会議の非参与観察から組織における看護部の位置づけについてアセスメントし、課題を追求する。 c. 看護管理業務の非参与観察からドナベディアンの医療の質評価3側面の「構造」「結果」について評価し、アセスメントする。 d. リーダー業務への一部参画、実践、シャドーイング、非参与観察などから臨床における看護サービスの質管理についてアセスメントし、課題を追求する。 e. リーダー業務への一部参画、実践、シャドーイング、非参与観察などを通して臨床倫理についてアセスメントし、課題を追求する。 f. 多職種カンファレンスに参加し、多職種連携の在り方を検討し、課題について明確化する。 g. 院内研修に参画し（一部を担当するなど）、継続教育、卒後教育の在り方について検討する。 h. 医療安全室の業務の非参与観察により、コンフリクトマネジメント、リスクマネジメントと看護サービスの質管理についてアセスメントする。		
評価方法	自己の課題追求の程度(40%) 課題分析(20%) 課題レポートとプレゼンテーションの完成度(40%)		
テキスト 参 考 書	１．ナンシー・バーンズ他／黒田裕子訳(2015). バーンズ&グローブ看護研究入門、第7版、エルゼビアジャパン. ２．岩淵千明(2000). あなたもできるデータの処理と解析、福村出版. ３．APA(アメリカ心理学会)／前田樹海他訳(2011). 論文作成マニュアル、医学書院. ４．日本看護科学学会誌、日本看護管理学会誌		
履修上の 注意点	研究方法や論文作成マニュアルなど十分に読み込んでおくこと。		

科目名	多職種連携方法論	科目番号	10	単　位	2	時　間	30
教員名	阿部(安井)恵子(恵子)	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択	開講学期		後期	

科目概要	我が国では、超高齢社会を迎え、医療のあり方は多様化、複雑化している。地域社会の人々のケアの質を向上させるために、保健・医療・福祉の多職種専門職者と信頼関係を構築し、連携及び協働することができる能力を身につける。多職種連携における自己の役割と他職種の役割理解、連携のためのアサーティブコミュニケーション能力と、専門職としての高い倫理観とプロフェッショナリズムを身につけ、自らを省察し課題を明らかにする。具体的には講義、グループワークでの事例検討等を通して、課題解決に向けて、積極的にコミュニケーションを図り、他職種の役割及び視点、さらに生活者としての患者・家族のニーズや社会背景を理解し、グループ討論することで、多職種連携の意義を理解する。
目　標	1．多職種連携・協働の意義を述べることができる。 2．多職種協働における自己の役割と他職種の役割を述べることができる。 3．チーム医療に求められるアサーティブコミュニケーション能力と他職種をリスペクトする態度について述べることができる。 4．生活する当事者の視点を考慮してディスカッションできる。 5. 多職種の視点で医療・福祉・地域の側面から多角的にディスカションできる。 6．健康問題を持つ対象者の現状と課題を理解し、対象者中心の援助計画を立案できる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	【ガイダンス】授業の概要、評価について 【講義】多職種医療の歴史、概要	阿部(安井)恵子(恵子)
第2回	【グループワーク】各自の多職種連携医療の現状と課題について	阿部(安井)恵子(恵子)
第3回	【講義】チームコミュニケーション	阿部(安井)恵子(恵子)
第4回	【グループワーク】アサーティブコミュニケーション	阿部(安井)恵子(恵子)
第5回	【講義】多職種連携の実際：看護師・薬剤師他(ゲストスピーカー)	阿部(安井)恵子(恵子)
第6回	【グループワーク】事例検討	阿部(安井)恵子(恵子)
第7回	【講義】多職種連携の実際：医師・臨床検査技師他(ゲストスピーカー)	阿部(安井)恵子(恵子)
第8回	【グループワーク】事例検討	阿部(安井)恵子(恵子)
第9回	【講義】多職種連携の実際：理学療法士・作業療法士他(ゲストスピーカー)	阿部(安井)恵子(恵子)
第10回	【グループワーク】事例検討	阿部(安井)恵子(恵子)
第11回	【講義】多職種連携の実際：管理栄養士・社会福祉士他(ゲストスピーカー)	阿部(安井)恵子(恵子)
第12回	【グループワーク】事例検討	阿部(安井)恵子(恵子)
第13回	多職種チームカンファレンス①	阿部(安井)恵子(恵子)
第14回	多職種チームカンファレンス②	阿部(安井)恵子(恵子)
第15回	全体討論　まとめ	阿部(安井)恵子(恵子)

評価方法	出席状況、最終レポートにより評価します。
テキスト，参考書.	参考書　1. 多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル、篠田道子　(2011). 医学書院 2. エピソードから地域に根ざした医療とケアのあり方を考える、安井浩樹　編（2019）. 京都廣川書店 3. コミュニケーション論・多職種連携、内山靖　他(2020). 医歯薬出版
履修上の注意点	積極的に討論に参加することが望まれる。

【旧】

科目名	多職種連携方法論	科目番号	9	単　位	2	時　間	30
教員名	阿部(安井)恵子(恵子)	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択	開講学期		後期	

科目概要	我が国では、超高齢社会を迎え、医療のあり方は多様化、複雑化している。地域社会の人々のケアの質を向上させるために、保健・医療・福祉の多職種専門職者と信頼関係を構築し、連携及び協働することができる能力を身につける。多職種連携における自己の役割と他職種の役割理解、連携のためのアサーティブコミュニケーション能力と、専門職としての高い倫理観とプロフェッショナリズムを身につけ、自らを省察し課題を明らかにする。具体的には講義、グループワークでの事例検討等を通して、課題解決に向けて、積極的にコミュニケーションを図り、他職種の役割及び視点、さらに生活者としての患者・家族のニーズや社会背景を理解し、グループ討論することで、多職種連携の意義を理解する。
目　標	1．多職種連携・協働の意義を述べることができる。 2．多職種協働における自己の役割と他職種の役割を述べることができる。 3．チーム医療に求められるアサーティブコミュニケーション能力と他職種をリスペクトする態度について述べることができる。 4．生活する当事者の視点を考慮してディスカッションできる。 5. 多職種の視点で医療・福祉・地域の側面から多角的にディスカションできる。 6．健康問題を持つ対象者の現状と課題を理解し、対象者中心の援助計画を立案できる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	【ガイダンス】授業の概要、評価について 【講義】多職種医療の歴史、概要	阿部(安井)恵子(恵子)
第2回	【グループワーク】各自の多職種連携医療の現状と課題について	阿部(安井)恵子(恵子)
第3回	【講義】チームコミュニケーション	阿部(安井)恵子(恵子)
第4回	【グループワーク】アサーティブコミュニケーション	阿部(安井)恵子(恵子)
第5回	【講義】多職種連携の実際：看護師	阿部(安井)恵子(恵子)
第6回	【グループワーク】事例検討	阿部(安井)恵子(恵子)
第7回	【講義】多職種連携の実際：医師	阿部(安井)恵子(恵子)
第8回	【グループワーク】事例検討	阿部(安井)恵子(恵子)
第9回	【講義】多職種連携の実際：理学療法・作業療法	阿部(安井)恵子(恵子)
第10回	【グループワーク】事例検討	阿部(安井)恵子(恵子)
第11回	【講義】多職種連携の実際：栄養士	阿部(安井)恵子(恵子)
第12回	【グループワーク】事例検討	阿部(安井)恵子(恵子)
第13回	多職種チームカンファレンス①	阿部(安井)恵子(恵子)
第14回	多職種チームカンファレンス②	阿部(安井)恵子(恵子)
第15回	全体討論　まとめ	阿部(安井)恵子(恵子)

評価方法	出席状況、最終レポートにより評価します。
テキスト 参 考 書	参考書　1. 多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル、篠田道子　(2011). 医学書院 2. エピソードから地域に根ざした医療とケアのあり方を考える、安井浩樹　編（2019）. 京都廣川書店 3. コミュニケーション論・多職種連携、内山靖　他(2020). 医歯薬出版
履修上の 注意点	積極的に討論に参加すことが望まれる。

【新】

資料２３

開設後５年間の人事計画【改訂版】

の塗り潰しは定年に伴う最終年度を示す

領域		開設年度 2023(令和5)年度 教授	開設年度 2023(令和5)年度 准教授	完成年度 2024(令和6)年度 教授	完成年度 2024(令和6)年度 准教授	2025(令和7)年度 教授	2025(令和7)年度 准教授	2026(令和8)年度 教授	2026(令和8)年度 准教授	2027(令和9)年度 教授	2027(令和9)年度 准教授	具体的な人事計画の説明
看護基礎科目分野	定年72歳	8青山 69歳 （国際保健）		8青山 70歳		8青山 71歳		8青山 72歳 最終年度				教員調書番号8の青山については、定年規程の但し書条項により72歳が定年となる。まず、国際保健分野に実績を持つ学准教授MKに今後2年間で同分野の業績を積み上げさせる。同時に、MKは2025年度に博士号取得見込であり、教授に昇任させる。完成年度後、青山と合同授業形式で担当させ、青山が定年後、MK単独で担当させる人事計画とする。
						調書番号8 の追加人事 教授昇任予定 博士号取得予定 61歳		調書番号8 の追加人事 教授昇任予定 博士号取得予定 62歳		調書番号8 の追加人事 教授昇任予定 博士号取得予定 63歳		
基礎発展看護学領域	定年74歳	2白鳥 71歳 （基礎看護）		2白鳥 72歳		2白鳥 73歳		2白鳥 74歳定年 最終年度				教員調書番号2の白鳥については、定年規程の但し書条項により74歳が定年となる。担当する基礎看護分野を専門とする本学准教授IM52歳に、今後2年間研究業績を積み上げさせる。2025年度に教授昇任を予定し、白鳥の研究指導補助として2年間の経験を重ね、白鳥が定年後、HM単独で担当させる人事計画とする。
						調書番号2 の追加人事 教授昇任予定 博士取得済 54歳		調書番号2 の追加人事 学部教授予定 博士取得済 55歳		調書番号2 の追加人事 学部教授予定 博士取得済 56歳		
		2白鳥 71歳 （看護管理）		2白鳥 72歳		2白鳥 73歳		2白鳥 74歳定年 最終年度				教員調書番号2の白鳥については、定年規程の但し書条項により74歳が定年となる。担当する巣籠管理分野を専門とする本学教授HM60歳に、今後2年間研究業績を積み上げさせる。HMは2025年度に博士号取得予定であり、白鳥の研究指導補助として2年間の経験を重ね、白鳥が定年後、IM単独で担当させる人事計画とする。
						調書番号2 の追加人事 学部教授 博士取得予定 62歳		調書番号2 の追加人事 学部教授 博士取得予定 63歳		調書番号2 の追加人事 学部教授 博士取得予定 64歳		
	定年75歳	①臼井 72歳		①臼井 73歳		①臼井 74歳		①臼井 75歳定年 最終年度				教員調書番号①の臼井については、定年規程の但し書条項により定年が75歳となる。担当する災害看護分野に実績を持つ本学准教授MK56に2年間、同分野の業績を積み上げさせ、完成年度後に臼井の研究指導補助を担当させる。同准教授は2025年に教授に昇任予定で、臼井が定年後はMK単独で担当させる人事計画とする。
						調書番号8 の追加人事 教授昇任予定 博士号取得済 59歳		調書番号8 の追加人事 教授昇任予定 博士号取得済 60歳		調書番号8 の追加人事 教授昇任予定 博士号取得済 61歳		
生涯発達看護学領域	定年73歳	1清水 68歳 （母性・助産看護）		1清水 69歳		1清水 70歳		1清水 71歳		1清水 72歳		教員調書番号1の清水については、定年規程の但し書条項により73歳が定年となる。母性・助産看護学分野にある程度の実績を持つ本学准教授SK60歳に今後3年間、同分野の業績を積み上げさせ、2025年度からは清水の研究指導補助として経験を積む。また、清水は研究科長、別科助産学専攻長併任であることから2026年度からは清水に代わってSK単独で担当することも可能な人事計画とする。
						調書番号1 の追加人事 学部准教授 博士取得済 62歳		調書番号1 の追加人事 学部准教授 博士取得済 63歳		調書番号1 の追加人事 学部准教授 博士取得済 64歳		
	定年74歳	4金城 73歳		4金城 74歳		4金城 75歳		4金城 76歳定年 最終年度				教員調書番号4の金城については、定年規程の但し書条項により76歳が定年となる。担当する小児看護分野ある程度の実績を持つ本学准教授HS56歳ついて、3年間で同分野の研究業績を重ねるともに、博士号取得後、教授に昇格させる。その後、2025年度から金城の研究指導補助を担当させ、金城が定年後、HS単独で担当させる人事計画とする。
								調書番号4 の追加人事 教授昇任予定 博士号取得済 59歳		調書番号4 の追加人事 教授昇任予定 博士号取得済 60歳		
	定年73歳	②安藤 68歳		②安藤 67歳		②安藤 68歳		②安藤 69歳		②安藤 70歳		教員調書番号②の安藤については、定年規程の但し書条項により73歳が定年となる。担当する成人・老年看護分野にある程度の実績を持つ本学准教授MK42歳に3年間で同分野の研究業績を重ねさせるともに、博士号取得後の2026年度から安藤の定年まで研究指導補助を担当させ、安藤が定年後、MK単独で担当させる人事計画とする。
								調書番号7 の追加人事 学部准教授 博士号取得予定 44歳		調書番号7 の追加人事 学部准教授 博士号取得予定 45歳		

開設年度　　完成年度

領域		2023(令和5)年度		2024(令和6)年度		2025(令和7)年度		2026(令和8)年度		2027(令和9)年度		具体的な人事計画の説明
		教授	准教授	教授	准教授	教授	准教授	教授	准教授	教授	准教授	
広域発達看護学領域	定年74歳	6岩瀬 73歳		6岩瀬 74歳		6岩瀬 75歳		6岩瀬 76歳定年 最終年度				教員調書番号6の岩瀬については、定年規程の但し書条項により76歳定年となるが、担当する精神看護分野に業績のある教授NK56歳について、今後3年間研究業績を積み上げ、2026年度から岩瀬の研究指導補助として1年間の経験を重ね、岩瀬が定年後、NK単独で担当させる人事計画とする。
								調書番号6 の補充人事 学部教授 博士号取得済 61歳		調書番号6 の補充人事 今回申請合可 業績追加 62歳		
	定年76歳	7佐久間 73歳		7佐久間 74歳		7佐久間 75歳		7佐久間 76歳定年 最終年度				教員調書番号7の佐久間については、定年規程の但し書条項により76歳定年となるが、担当する地域・在宅分野ともに専門とする教授AMに今後3年間研究業績を積み上げさせ、佐久間が定年後、AM単独で担当させる人事計画とする。
						調書番号9 補充人事 学部教授 博士号取得済 60歳		調書番号9 補充人事 学部教授 博士号取得済 61歳		調書番号9 補充人事 学部教授 博士号取得済 62歳		
	定年73歳	10藤丸 68歳		10藤丸 69歳		10藤丸 70歳		10藤丸 71歳		10藤丸 72歳		教員調書番号10の藤丸ついては、定年規程の但し書条項により73歳定年となるが、担当する地域・在宅と公衆衛生の2分野ともに専門とする准教授KT53歳ついて4年間研究業績を積み上げ、博士号取得後の2027年度から藤丸の研究指導補助として経験を重ね、その間も業績等を積み上げて藤丸が定年後、KT単独で担当させる人事計画とする。
										調書番号14 補充人事 学部准教授 博士取得見込 56歳		
	定年73歳	11西出 66歳		11西出 67歳		11西出 68歳		11西出 69歳		11西出 70歳		教員調書番号11の西出ついては、定年規程の但し書条項により73歳定年となるが、担当する地域・在宅と公衆衛生の2分野ともに専門とする本学准教授KM55歳ついて、4年間研究業績を積み上げ、2025年度の博士号取得後に西出の研究指導補助として研究指導経験を積ませ西出が定年後、KM単独で担当させる人事計画とする。
						調書番号11 補充人事 学部准教授 博士取得予定 57歳		調書番号11 補充人事 学部准教授 博士取得予定 58歳		調書番号11 補充人事 学部准教授 博士取得予定 59歳		
	定年74歳	12五十里 71歳		12五十里 72歳		12五十里 73歳		12五十里 74歳定年 最終年度				教員調書番号12の五十里ついては、定年規程の但し書条項により74歳定年となるが、担当する保健医療行政分野の専門で且つ医師・医学博士の補充となることから、現状の本学教員では適任者がいない。2025年度新規採用の新たな人事計画とし、1若手年間五十里の研究指導補助を行う若手教員を採用する。
						調書番号12 新規人事 新規採用 医師医学博士 50歳(予定)		調書番号12 新規人事 新規採用 医師医学博士 51歳(予定)		調書番号16 新規人事 新規採用 医師医学博士 52歳(予定)		

定年に達していない教員

59	穴井　美恵		60歳		61歳		62歳		63歳	
58	永井　邦芳		59歳		60歳		61歳		62歳	
61	平賀　元美		62歳		63歳		64歳		65歳	
50	石井健一郎		51歳		52歳		53歳		54歳	
平均年齢	66.93歳	➡	67.93歳	➡	65.25歳	➡	64.96歳	➡	61.65歳	平均年齢は科目担当のべ数で算定
	1071歳÷16人		1071歳÷16人		1566歳÷24人		1754歳÷27人		1233歳÷20人	
65歳超の割合	75%	➡	75%	➡	50%	➡	44%	➡	20%	65歳超の教員の割合は、補充教員を含めた総数から算出
	12人÷16人		12人÷16人		12人÷24人		12人÷27人		4人÷20人	

別添資料（13）

【旧】
資料２３

開設後５年間の人事計画

の塗り潰しは定年に伴う最終年度を示す

開設年度　完成年度

領域		2023（令和5）年度		2024（令和6）年度		2025（令和7）年度		2026（令和8）年度		2027（令和9）年度		具体的な人事計画の説明
		教授	准教授	教授	准教授	教授	准教授	教授	准教授	教授	准教授	
看護基礎科目分野	定年72歳	8青山 69歳 （国際保健）		8青山 70歳		8青山 71歳		8青山 72歳 最終年度				教員調書番号8の青山については、定年規程の但し書条項により72歳が定年となる。まず、国際保健分野に実績を持つ学准教授MKに今後2年間で同分野の業績を積み上げさせる。同時に、MKは2025年度に博士号取得見込であり、教授に昇任させる。完成年度後、青山と合同授業形式で担当させ、青山が定年後、MK単独で担当させる人事計画とする。
						調書番号8 の追加人事 教授昇任予定 博士号取得予定 61歳		調書番号8 の追加人事 教授昇任予定 博士号取得予定 62歳		調書番号8 の追加人事 教授昇任予定 博士号取得予定 63歳		
基礎発展看護学領域	定年74歳	2白鳥 71歳 （基礎看護）		2白鳥 72歳		2白鳥 73歳		2白鳥 74歳定年 最終年度				教員調書番号2の白鳥については、定年規程の但し書条項により74歳が定年となる。担当する基礎看護分野を専門とする本学准教授IM52歳に、今後2年間研究業績を積み上げさせる。2025年度に教授昇任を予定し、白鳥の研究指導補助として2年間の経験を重ね、白鳥が定年後、IM単独で担当させる人事計画とする。
						調書番号2 の追加人事 教授昇任予定 博士取得済 54歳		調書番号2 の追加人事 学部教授予定 博士取得済 55歳		調書番号2 の追加人事 学部教授予定 博士取得済 56歳		
		2白鳥 71歳 （看護管理）		2白鳥 72歳		2白鳥 73歳		2白鳥 74歳定年 最終年度				教員調書番号2の白鳥については、定年規程の但し書条項により74歳が定年となる。担当する巣籠管理分野を専門とする本学教授HM60歳に、今後2年間研究業績を積み上げさせる。HMは2025年度に博士号取得予定であり、白鳥の研究指導補助として2年間の経験を重ね、白鳥が定年後、IM単独で担当させる人事計画とする。
						調書番号2 の追加人事 学部教授 博士取得予定 62歳		調書番号2 の追加人事 学部教授 博士取得予定 63歳		調書番号2 の追加人事 学部教授 博士取得予定 64歳		
	定年75歳	3臼井 72歳		3臼井 73歳		3臼井 74歳		3臼井 75歳定年 最終年度				教員調書番号3の臼井については、定年規程の但し書条項により定年が75歳となる。担当する災害看護分野に実績を持つ本学准教授MK56に2年間、同分野の業績を積み上げさせ、完成年度後に臼井の研究指導補助を担当させる。同准教授は2025年に教授に昇任予定で、臼井が定年後はMK単独で担当させる人事計画とする。
						調書番号8 の追加人事 教授昇任予定 博士号取得済 59歳		調書番号8 の追加人事 教授昇任予定 博士号取得済 60歳		調書番号8 の追加人事 教授昇任予定 博士号取得済 61歳		
生涯発達看護学領域	定年73歳	1清水 68歳 （母性・助産看護）		1清水 69歳		1清水 70歳		1清水 71歳		1清水 72歳		教員調書番号1の清水については、定年規程の但し書条項により73歳が定年となる。母性・助産看護学分野にある程度の実績を持つ本学准教授SK60歳に今後3年間、同分野の業績を積み上げさせ、2025年度からは清水の研究指導補助として経験を積む。また、清水は研究科長、別科助産学専攻長併任であることから2026年度からは清水に代わってSK単独で担当することも可能な人事計画とする。
						調書番号1 の追加人事 学部准教授 博士取得済 62歳		調書番号1 の追加人事 学部准教授 博士取得済 63歳		調書番号1 の追加人事 学部准教授 博士取得済 64歳		
	定年74歳	4金城 73歳		4金城 74歳		4金城 75歳		4金城 76歳定年 最終年度				教員調書番号4の金城については、定年規程の但し書条項により76歳が定年となる。担当する小児看護分野ある程度の実績を持つ本学准教授HS56歳ついて、3年間で同分野の研究業績を重ねるともに、博士号取得後、教授に昇格させる。その後、2025年度から金城の研究指導補助を担当させ、金城が定年後、HS単独で担当させる人事計画とする。
								調書番号4 の追加人事 教授昇任予定 博士号取得済 59歳		調書番号4 の追加人事 教授昇任予定 博士号取得済 60歳		
	定年73歳	5安藤 68歳		5安藤 67歳		5安藤 68歳		5安藤 69歳		5安藤 70歳		教員調書番号7の安藤については、定年規程の但し書条項により73歳が定年となる。担当する成人・老年看護分野にある程度の実績を持つ本学准教授MK42歳に3年間で同分野の研究業績を重ねさせるともに、博士号取得後の2026年度から安藤の定年まで研究指導補助を担当させ、安藤が定年後、MK単独で担当させる人事計画とする。
								調書番号7 の追加人事 学部准教授 博士号取得予定 44歳		調書番号7 の追加人事 学部准教授 博士号取得予定 45歳		

開設年度　　完成年度

領域		2023(令和5)年度		2024(令和6)年度		2025(令和7)年度		2026(令和8)年度		2027(令和9)年度		具体的な人事計画の説明
		教授	准教授	教授	准教授	教授	准教授	教授	准教授	教授	准教授	
広域発達看護学領域	定年74歳	6岩瀬 73歳		6岩瀬 74歳		6岩瀬 75歳		6岩瀬 76歳定年 最終年度				教員調書番号6の岩瀬については、定年規程の但し書条項により76歳定年となるが、担当する精神看護分野に業績のある教授NK56歳について、今後3年間研究業績を積み上げ、2026年度から岩瀬の研究指導補助として1年間の経験を重ね、岩瀬が定年後、NK単独で担当させる人事計画とする。
								調書番号6 の補充人事 学部教授 博士号取得済 61歳		調書番号6 の補充人事 今回申請合可 業績追加 62歳		
	定年76歳	7佐久間 73歳		7佐久間 74歳		7佐久間 75歳		7佐久間 76歳定年 最終年度				教員調書番号7の佐久間については、定年規程の但し書条項により76歳定年となるが、担当する地域・在宅分野ともに専門とする教授AMに今後3年間研究業績を積み上げさせ、佐久間が定年後、AM単独で担当させる人事計画とする。
						調書番号9 補充人事 学部教授 博士号取得済 60歳		調書番号9 補充人事 学部教授 博士号取得済 612歳		調書番号9 補充人事 学部教授 博士号取得済 623歳		
	定年73歳	10藤丸 68歳		10藤丸 69歳		10藤丸 70歳		10藤丸 71歳		10藤丸 72歳		教員調書番号10の藤丸ついては、定年規程の但し書条項により73歳定年となるが、担当する地域・在宅と公衆衛生の2分野ともに専門とする准教授KT53歳ついて4年間研究業績を積み上げ、博士号取得後の2027年度から藤丸の研究指導補助として経験を重ね、その間も業績等を積み上げて藤丸が定年後、KT単独で担当させる人事計画とする。
										調書番号14 補充人事 学部准教授 博士取得見込 56歳		
	定年73歳	11西出 66歳		11西出 67歳		11西出 68歳		11西出 69歳		11西出 70歳		教員調書番号11の西出ついては、定年規程の但し書条項により73歳定年となるが、担当する地域・在宅と公衆衛生の2分野ともに専門とする本学准教授KM55歳ついて、4年間研究業績を積み上げ、2025年度の博士号取得後に西出の研究指導補助として研究指導経験を積ませ西出が定年後、KM単独で担当させる人事計画とする。
						調書番号11 補充人事 学部准教授 博士取得予定 57歳		調書番号11 補充人事 学部准教授 博士取得予定 58歳		調書番号11 補充人事 学部准教授 博士取得予定 59歳		
	定年74歳	12五十里 71歳		12五十里 72歳		12五十里 73歳		12五十里 74歳定年 最終年度				教員調書番号12の五十里ついては、定年規程の但し書条項により74歳定年となるが、担当する保健医療行政分野の専門で且つ医師・医学博士の補充となることから、現状の本学教員では適任者がいない。2025年度新規採用の新たな人事計画とし、1若手年間五十里の研究指導補助を行う若手教員を採用する。
						調書番号12 新規人事 新規採用 医師医学博士 50歳代		調書番号12 新規人事 新規採用 医師医学博士 50歳代		調書番号16 新規人事 新規採用 医師医学博士 50歳代		